

161
712

新鐵

千葉昌胤

越山平三郎

纂述

處	英	漢	翻	批	文	演
世	學	讀	譯	評	章	說
の	の	の	の	の	の	の
方	裨	補	軌	龜	參	材
針	益	翼	範	鑑	考	料

三 版

序言

利劍光耿々。佩之使我無邪心。故

徒倡拊用贈我比知音。我心如冰劍如雪。不

能刺讒夫。使我心腐劍鋒折。決雲中斷開青

天。噫劍與我俱變化歸黃泉。

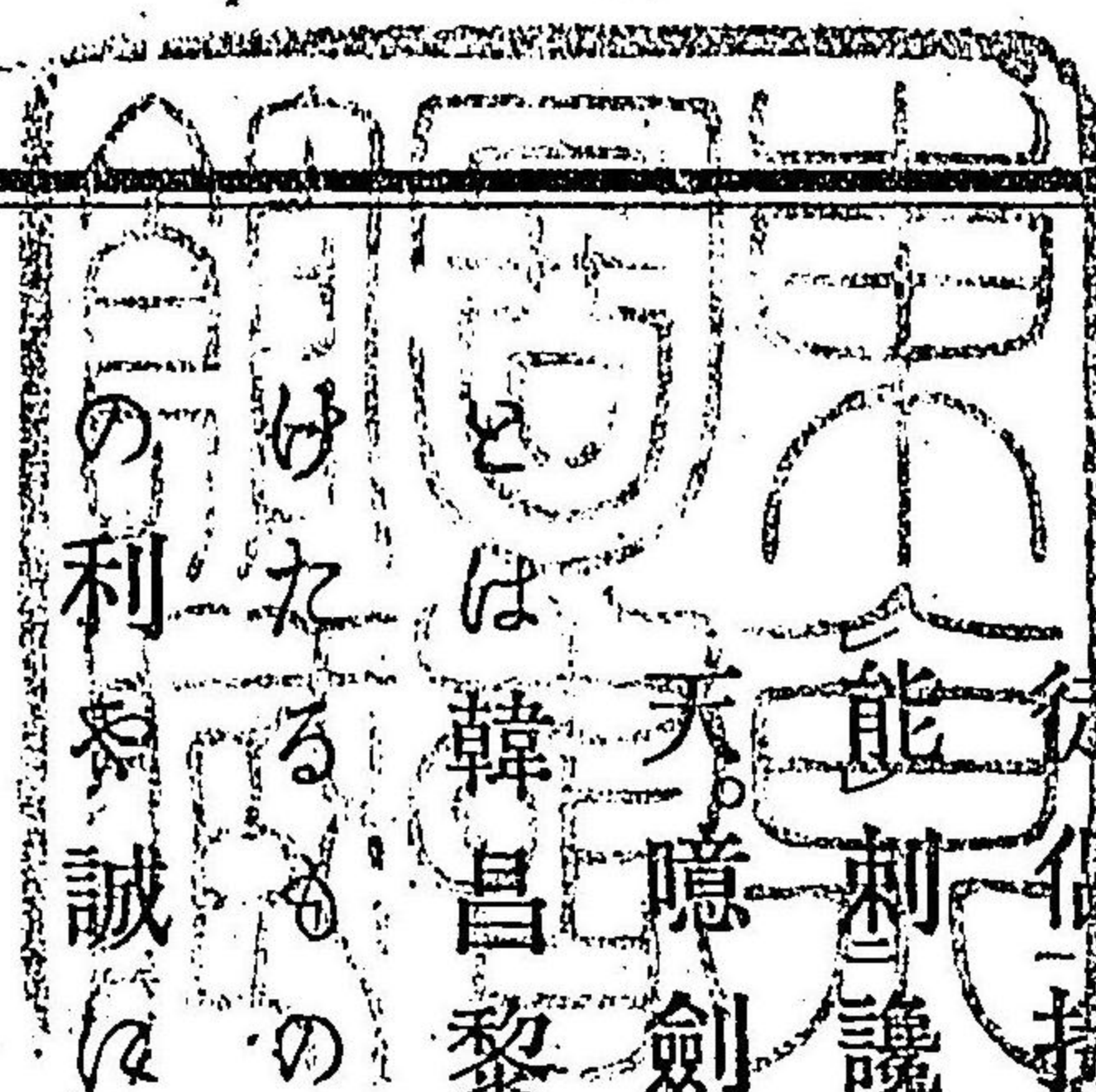
は韓昌黎利劍の詩にして我か利劍の譲り受

けたるものあり客あり一瞥して曰く奇哉利劍

の利誠は是れ干將莫邪と謂ふべし漢に洋に

和に苟も劍光の玲瓏而して劍利の犀銳あるも

のは悉く取つて此の一匣中に藏め一々之に批



評を付し之に翻譯を施し以て鑒識し易からしむ況んや其翻譯の含英咀華意義の明かある又た況んや其批評の闡幽顯微奇正の窮りなき予心を感じしめ予目を眩せしめ予手と足とをて且舞且踏を覺へさらしむ奇哉利劍の利や而して予は更に其利の時弊に剴切あるを驚嘆せずんはあらず乃ち之を尙方の斬馬劍と字せんよりは寧ろ之を時弊の斬魔劍と號せんとする也請ふ試に韓公の詩句を假り箇別之を評せん可あらん乎夫れ吾子の利劍や和漢洋百千萬億

群刀中より抽銓し木刀銀を塗るの嫌かり豈に所謂利劍光耿々たるものに非らずや鋒銚の向ふ所頑夫をして廉に懦夫をして志を立て鄙夫薄夫をして寛且敦からしむ豈に所謂佩之使我無邪心ものに非らずや吾子坊間に此種の絶無を患ひ秘を發いて世に公にす豈に所謂故人念我寡徒侶持用贈我比知音ものに非らずや果して知る世人之を以て心腸を鍛冶し利劍と其利や光やを競ふに至るを豈に我心如氷劍如雪ものに非らずや而して尙且冥鈍孱脆人心を諷刺

と世道を斧正する能わすんは豈に所謂不能刺
讒夫使我心腐劍鋒折ものに非らすや「利劍」一出
人に在つては保身の器と爲り國に在つては護
國の用を爲す魑魅畏れて魍魎匿れ秋陰霽れて
白日見わる豈に所謂決雲中斷開青天ものに非
らすや「利劍」於是遺憾なきあり而して世の「利劍」
を利用せしもの亦た於是遺憾なきあり功成り
名遂けて身退くに及ひ此人や蓋し於是將に謂
わんとす噫劍與我俱變化歸黃泉と奇哉「利劍」の
利や胡爲そ若く韓公の詩と冥符するや客の語

未だ盡さず忽ち其聲を大に疾呼して曰く奇
哉「利劍」の利や予は更に七不思議を發顯せり

- 第一 演説の材料
 - 第二 文章の参考
 - 第三 批評の龜鑑
 - 第四 翻譯の軌範
 - 第五 漢讀の補翼
 - 第六 英學の裨益
 - 第七 處世の方針
- 是より奇哉「利劍」の利や豈に啻た時弊の斬魔劍

のみからん眞に箇れ十九世紀以後智識戦場の
正宗貞宗なりと著者終始黙聽と竦然以て畏れ
瞿然以て思ひ恍焉謝して曰く奇哉「利劍」の利や
著者自ら其利の光の奇の此の如きを知らざる
也姑く客の語を記し以て序言に代ふ若し夫れ
世人著者を詰つて汝果して若箇の「アンピシヨ
ン」を抱有せるやと問はし著者は唯た冷然一笑
李白と王維の詩を高吟せんのみ
問余何意栖碧山。笑而不答心自閑。桃花流水
杳然去。別有天地非人間。

緑樹重陰蓋四隣。青苔日厚自無塵。科頭箕踞
長松下。白眼看他世上人。

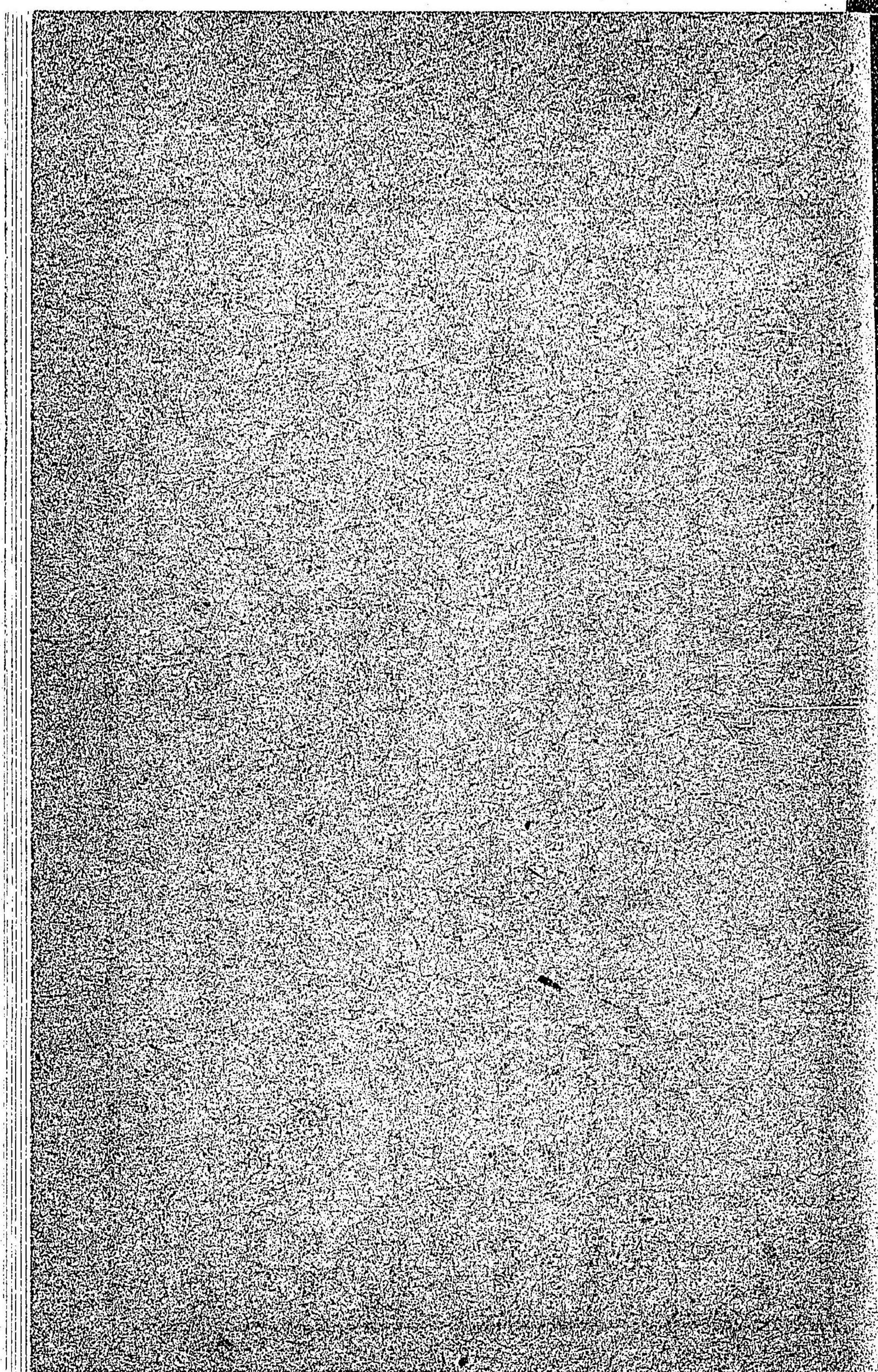
明治己丑晩秋

纂述者識

目次

和 漢 洋

詩 政 法 道 文 歌
門 治 律 德 學 門



詩 門

治生不求富。讀書不求官。譬如飲不醉。陶然有餘歡。 (蘇東坡)

生を治めて必を富を求む故に非利の利に眩倒せらる……書を讀んで必ず官を求む故に非義の義に瞞着せらる……憐む若箇醉漢世間奚を擾々たる……誰か能く陶然自適以て天真爛漫の郷に遊ぶ耶

猿啼客散暮江頭。人自傷心水自流。同作逐臣君更遠。青山萬里一孤舟。 (劉長卿)

保安條例電發……天下忠士義士志士壯士烈士……一串逐臣……都門轉た、猿啼水流の感あり……青山三里一孤舟……請ふ愁ふる莫れ次詩を看よ

十里黃雲白日曛。北風吹雁雪紛紛。莫愁前路無知己。天下誰人不識君。 (高適)

那の傷心を拂ふ箇の快事……到る處都の風……花迎へ鶯喚ふ……無端博得別乾坤

誰擁危城欲帝秦。一時忠義竟沈淪。平原枉有三千客。不及田橫

五百人。

(張船山)

笑て看る政黨の軌轢……我田へ水を引く……反目敵視……面白し……利を以て黨せんよりは寧ろ義を以て黨せよ……平原三千の客は及ばず田横の五百人……況んや田横の三千人而して平原の五百人をや酒幔高樓一百家。宮前揚柳寺前華。内園分得温湯水。二月中旬已進瓜。

(王建)

何處の内園そ……花神柳情楚々人を惱ます……忽ち認む眼前破瓜否な進瓜……怪む春色未だ半ならずして夏景已に至るを……園丁一滴温湯の水豈に造化の時雨よ優る歟

燕趙悲歌士。相逢劇孟家。寸心言不盡。前路日將斜。(錢起)

憶ひ起す鷗游館全國有志大懇親會……四百燕趙の士……氣慨然……只た醉倒せよ悲歌する勿れ……危矣哉……寸心の言ひ盡さるは即ち大に言ひ盡す所以ならずや

錦城絲管日紛々。半入江風半入雲。此曲祇應天上有人間能得幾回聞。

(杜甫)

粉白黛綠五々三々……酒如池肉如林……絃歌起る……前半ハ衛風後半ハ鄭聲……恨殺當年花敬定……咄何者そ……痴漢驕漢暴漢

謗聲易弭怨難除。秦法雖嚴亦甚疎。夜半橋邊呼孺子。人間猶有

未燒書。

(陳恭尹)

怨謗を除く豈に嚴法を假らん……苛政を撤せよ……他の醉ふを惡む何ぞ醒藥を須ひん……酒を強ゆるを止めよ

節去蜂愁蝶不知。曉庭還繞折殘枝。自緣今日人心別。未必秋香

(鄭谷)

一夜衰。 颯然沛然たるものは西洋崇拜主義……ナシヨナリテを奈せん……語を寄す國粹保存家即ち可憐蝴蝶彼は彼たるも我は我たれ……繞守せよ一枝の秋香……未だ必ましも國粹は一夜に衰へず

紫陌紅塵拂面來。無人不道看花回。玄都觀裏桃千樹。盡是劉郎去後栽。(劉禹錫)

世の中は三日見ぬまの櫻か

東方半明大星沒。獨有太白配殘月。嗟爾殘月勿相疑。同光共影須臾期。殘月暉々。太白睽々。雞三號。更五點。(韓昌黎)

讀み去り讀み來る古怪の氣字句外に氣配たるを覺ふ何等快絶そ……胡そ此詩を借りて一冷評を試みざる……否……否……好一頼山陽翁の注脚を借らん……翁曰此詩有所寄此時順宗在位小人執權太子憲宗即位即賢者立朝小人被退小人之在朝猶東方半明將曙之間云其須臾也……吾れ請ふ翁の爲に一轉語を下さん東

方半明故に小人朝に在るのみ

如何苦抱湘靈瑟。來向齊王殿上彈。

(周之桐)

齊王芋を好む……客何を瑟を鼓する……嗚々嗚々喋々するを休めよ……聽衆一般芋を好む……辨士の瑟
何が有らん

春風堪賞還堪恨。纔見開華又落華。

(雍陶)

朝開暮落人をして賞忙了恨忙了ふらしむるものは……改良論者

今日獨經歌舞地。古槐疎冷夕陽多。

(趙嘏)

舞踏々々……令嬢をして狂せしめ紳士として癡ならしむ(昔て)……卿等は能く此の十四字を咀嚼し得る
や(今ま)……言ふ勿れ彼一時此一時

儒生好奇古。出口談唐虞。倘生義皇前。所談竟何如。古人既已死。

古道存遺書。一語不能踐。萬卷徒空虛。我願但飲酒。不復知其餘。

君看醉鄉人。乃在天地初。

(林子羽)

由井正雪は十能六藝指南所の看板を掲ぐ……儒者先醒は修身齊家治國平天下指南所の看板を掲ぐ……正
雪必ずしも空言的の徒ならず……先醒果して實踐的の人なるか……あふ覺束な……謝問十三經廿二史
の値打は濁醪一杯に孰れそ

爲政心閑物自閑。朝看飛鳥暮飛還。寄書河上神明宰。羨爾城頭
姑射山。

(李頎)

公以て政を爲す事々恢乎として閑……私以て政を爲す物々紛然として煩……一心公私は萬機煩閑の岐路

翻手作雲覆手雨。紛々輕薄何須數。君不見管鮑貧時交。此道今

人棄如土。

(杜甫)

世人結交須黃金。々々不多交不深。縱令然諾暫相許。終是悠悠

行路心。

(張謂)

古人は心交今人は形交否か金交……褒元道錢神論云わすや官尊名顯皆錢所致無德而尊無勢而熱……
地獄の沙汰も金次第……生きて守錢奴を爲らすんハ死して守錢鬼を爲れ……噫

此地別燕丹。壯士髮衝冠。昔時人已沒。今日水猶寒。

(賈賓王)

大坂浪士都に登る……怒髮麥覆帽を衝く……如夜叉……人をして今日膽尚寒からしむ

一封朝奏九重天。夕貶潮州路八千。欲爲聖明除弊事。肯將衰朽

惜殘年。雲橫秦嶺家何在。雪擁藍關馬不前。知汝遠來應有意。好

叔吾骨瘡江邊。

六
〔韓昌黎〕

憂心悄悄群小慍々……料り得たり當時政路の往來留……妖雲横り怪雪擁す……彼阻に陟れば我馬
痛む……公姑らく他の露るゝを咲て

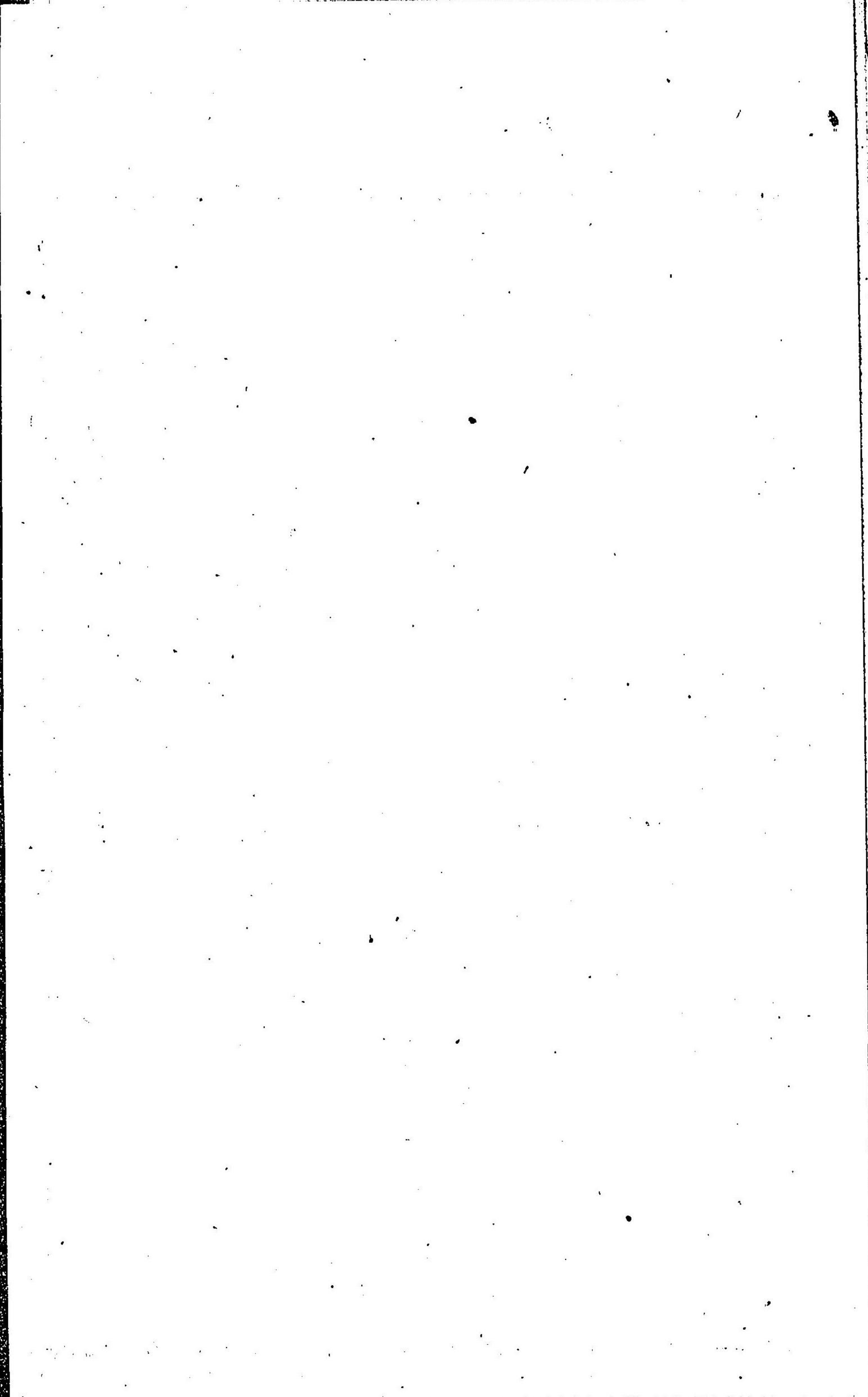
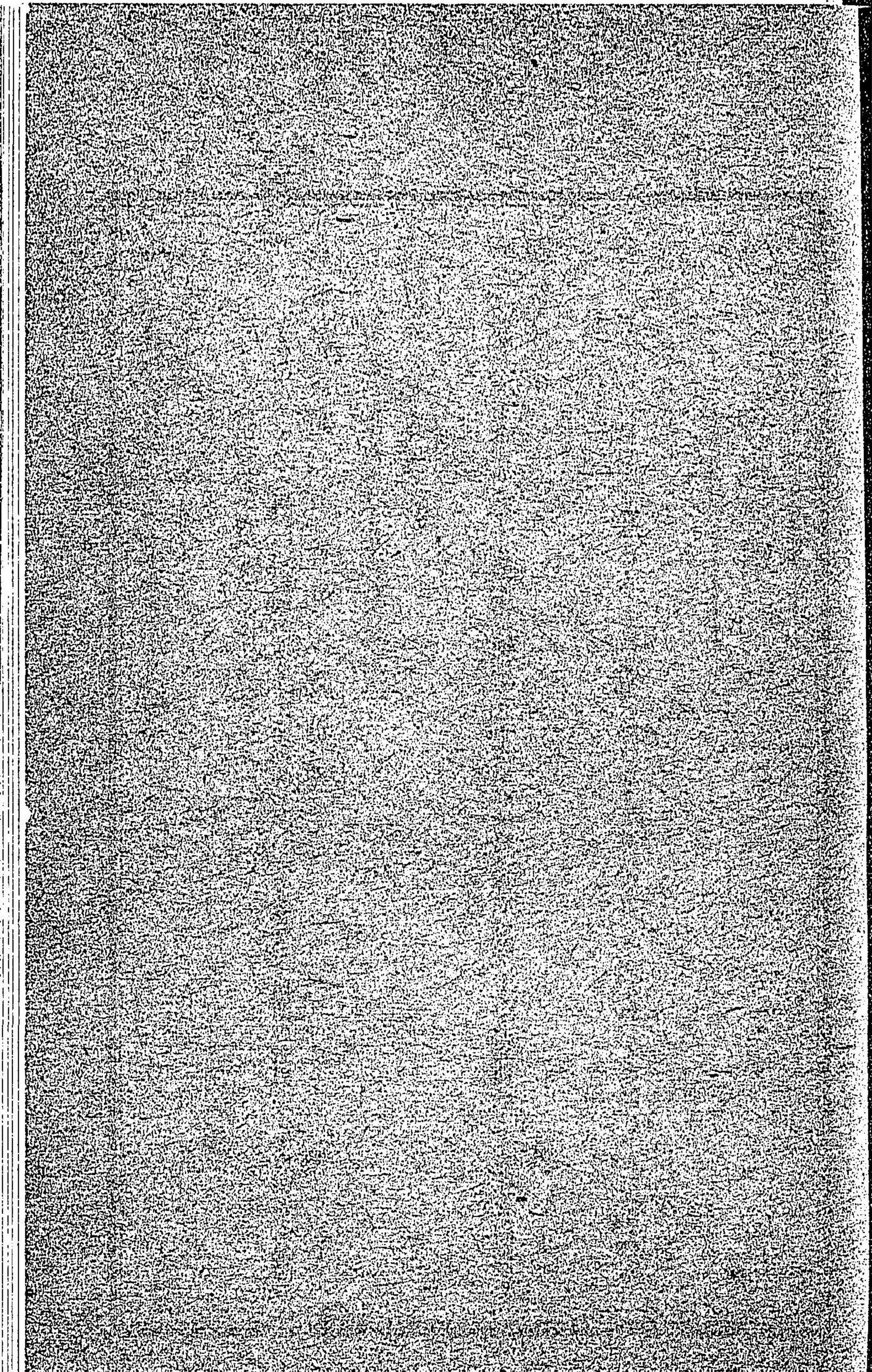
人皆生子欲聰明。吾爲聰明誤一生。唯願孩兒愚且魯。無災無難
至公卿。
〔蘇東坡〕

災ふく難なし宜なる哉愚且魯……外を飾る錦衣珠樓之を仰げハ愈高し……内に住む木偶泥塑之に就けは
愈卑し……只た表面を觀て去れ裏面を窺ふを恕せ

齷々當世士。所愛在飢寒。但見賤者悲。不聞貴者嘆。大賢事業異。
遠抱非俗觀。報國心皎潔。念時涕汎瀾。妖姬坐左右。柔指發哀彈。
酒肴雖日陳。感激寧爲歡。秋陰欺白日。泥潦不少乾。河堤決東郡。
老弱隨驚湍。天意固有屬。誰能詰其端。願辱太守薦。得充諫諍官。
排雲叫閭闔。披腹呈琅玕。致君豈無術。自進誠獨難。
〔韓昌黎〕

一節世俗常態……二節志士憂憤……三節貴紳暴奢……四節洪水妖兆……五節經綸事業……六節大臣責任
……前後百餘言炎々たり忠君愛國の情……等閑に看る勿れ古今を對照せよ……穿ち來る時事の病根……

眞箇寸鐵殺人



政治法律

苛政猛於虎。

(孔子)

虎人を噬む然れども有數の人……苛政民を噬む而して無數の民……天下虎なきの國あり苛政なきの國は何處ぞ

聽言如醉。

(韓非)

醉昏昏底便是無心處……愛憎消へ偏頗去る……無心を以て有心を聽く……曲直判然……蓋し大岡越前守の家法

尙賢者政之本也。

(墨子)

詩に云はすや濟々たる多士文王以て寧しき

惠者民之仇讎。法者民之父母。

(管子)

姑息の惠民をして依頼心に傾向せしむ……依頼心は是れ民の仇讎……嚴明の法民をして自助心を反動せしむ……自助心は是れ民の父母……微酷亦至論

得人者興。失人者崩。

(毛詩)

人民ハ實体政府ハ虚影……体なくんは豈に影あらん

罪疑惟輕。功疑惟重。與其殺不辜。寧失不經。

(尙書)

鍛鍊羅織罪なきを罪とし……率合附會功なきを功とす……濫賞又濫罰……昔人地下に悲しむ

聖人無常心。以百姓心爲心。

(老子)

民の心を以て我が心と爲す……政治家大本領

法者治之端也。君子者法之原也。

(荀子)

正宗の一刀……活人を爲らすして殺人と爲る……治國の一法……治の端と爲らすして亂の端と爲る……使手次第

夫政不簡不易。民不能近。平易近民。民必歸之。

(周公)

政治の簡易は政費節減の第一策

中者立法之本。信者行法之要。

(薛文清公)

不偏は立法の精神不柱は司法の骨髓

防民之口。甚於防川。水壅而潰。傷人必多。

(召公)

壅遏すへからざるものは言論の自由

法令者治之具。而非制治清濁之源也。

(太史公)

峻法酷令……一時苟倫の治具……明德新民……千秋不易の治源也

樂民之樂者。民亦樂其樂。憂民之憂者。民亦憂其憂。樂以天下。憂以天下。

(孟子)

孟軻氏の醇乎醇なる民權家……到處民權を主張す……熱心……孟子七篇算し來れば一大民權論……只た此の一斑亦た以て全豹を知れ……千古以上早已に喝破し叱却す官權家……電如たる慧眼……誰か嘲る古人は迂々

與一利。不若除一害。

(耶律楚材)

守成的時代の常道……恐らくは創業的時代の活論に非らざる……利と與まば豈に害を除くの器ならんや

中世士大夫。以官爲家。罷則無所於歸。

(韓文公)

官を以て家と爲す……危哉岌々乎……蕪地地震來……車に乗る人は是れ車を挽く人

凡吏于土者。若知其職乎。蓋民之役。非以役民而已也。

(柳子厚)

鬼面人を叱し……豺目民を睨す……何時か撲却せん……官尊民卑の弊風

得人之道。在於知人。知人之法。在於責實。

(蘇東坡)

果して能く實を責むるに足る乎……官吏登用試験

未亂易治也。既亂易治也。有亂之萌。無亂之形。是謂將亂。將亂難

治。不可有亂急。亦不可以無亂弛。(蘇老泉)

現在を處する易し……過去を處する易し……將來を處する如何……癩疽の將に發せんとして未だ發せざるは「ドクトル」亦た頭を傾く

嗚呼在位而不肯自憂。又禁他人使皆不得憂。可嘆也夫。

(歐陽脩)

國家一大事……すまし顔……大膽不敵否大好不埒……心憎し……又他人を禁して皆憂ふるを得ざらむ……猿轡……吁國家と奈せん

千羊之皮。不如一狐之腋。千人之諾々。不如一士之諤々。

(張良)

一も賛成二も賛成三四五六も一口賛成……お味方主義……流行す會議黨議の……一士諤々……儘ならぬ多数決

泰山不讓土壤。故能成其大。河海不擇細流。故能就其深。王者不

(李斯)

却衆……遂客……明德何れに在る……乃公の度量細流土壤……比例如何

始如處女。敵人開戶。後如脫兔。敵不及拒。(孫子)

政黨的運動法……演說法處世法文章法討論法

安國家之道。先戒為寶。(吳子)

いろは骨牌……念にハ念を入れ

鳳兮々々。何德之衰也。往者不可諫。來者猶可追也。已而已而。今

(楚狂接輿)

接輿々々輕しく放歌するを休めよ……恐らくハ他の官吏侮辱に陥らん……接輿々々輕しく放歌するを休めよ……恐らくハ他の安眠妨害を爲さん……接輿制止を肯せず客亦た拘引告發せず……所謂言ふ者罪なく聽く者戒むるに足るは……唯た此の狂者の歌

若夫子嘗求古仁人之心。或異二者之為。何也。不以物喜。不以己

悲。居廟堂之高。則憂其民。處江湖之遠。則憂其君。是進亦憂。退亦

憂。然則何時而樂耶。其必曰先天下之憂而憂。後天下之樂而樂

(范文正公)

先憂後樂……否……先樂後憂……否々……先憂後樂……乃公滿腔子凝り結ふ一團自愛心……我あるのみ

……國なく民なし

蓋世有非常之人。然後有非常之事。有非常之事。然後有非常之功。

(司馬相如)

善きの非常と悪きの非常……只た一と線の分れ……踏ふ迷いそ氣付けを取れ

王臣蹇々。匪躬之故。

(周易)

宛然一幅楠公千早城死守の圖

君者舟也。庶人者水也。水則載舟。水則覆舟。

(傳)

水をして舟を載せしめ……舟をして水に覆らしむ……中間人あり立つ……誰そ……水夫……宰相……知る可し載と覆とは水夫の操權何如に繋るを

天下非有公是也。而各是其所是。天下皆堯也。可乎。

(莊子)

お太鼓新聞紙……汝も亦た社會の耳目なるか……洞然公是……輿論を聞見せよ……嘗見蠶測異端邪說各々其是を是とす……から耳うこし目

恃德者昌。恃力者亡。

(尙書)

政治家の徳義

國有七患。七患者何。城郭溝池不可守。而治宮室。一患也。邊國至境。四隣莫救。二患也。先盡民力無用之功。賞賜無能之人。民力盡於無用。財寶虛於待客。三患也。仕者待祿。游者憂反。君脩法討臣。臣憚而不敢拂。四患也。君自以爲聖智。而不問事。自以爲安疆。而無守備。四隣謀之不知戒。五患也。所言不忠。所忠不信。六患也。畜種菽粟。不足以食之。大臣不足事之。賞賜不能喜。誅罰不能威。七患也。以七患居國。必無社稷。以七患守城。敵至國傾。七患之所當國必有殃。

(墨子)

國防の準備未だ整わざるに過分の官邸を興すか如きは……一患……官民の間四分五裂して越人秦人の肥瘠を見るか如きは……二患……殿租苛税を賦し以て無能無器の冗員を養ふか如きは……三患……竊祿子費殺者紛々擾々偶ま政法を可否するの人あれば峻法直下するか如きは……四患……我意我慢蚊蛇仕事を企て四隣の窺隙を作るか如きは……五患……甘言を聽き忠言を容れず却て之を抑喝するか如きは……六患……農者困弊して餓寒累々たるも之を濟ふを知らず賞罰道を失まるか如きは……七患……以上七患の略解果して當るや否や……僥關せず焉

天之道損有餘。而補不足。人之道則不然。損不足。以奉有餘。

(老子)

是れ其れ「ルソー」財産平均論……「スメンサー」社會平權説の起る所以乎

凡天下之事。成於自同。而敗於自異。

(韓文公)

大同團結黨成る

天下者得之艱難。則失之不易。得之既易。則失之亦然。(蘇東坡)

功名……富貴……利達……亦然

自家一箇身心尙不能整理。更論甚政治。

(葉文清公)

世間一種の政治屋……政治を以て投機商法を爲す……濡れ手で粟の攫み取り……そうは問屋で卸すまい

足國之道。節用裕民。而善藏其餘。

(荀子)

富國策

竊人之財。猶謂之盜。况偷天官。以私己乎。

(王符)

甲乙丙の三盜あり……丙は財を盗む蓋し愚の盜乙は名を盗む蓋し智の盜甲は官を盗む蓋し奸の盜……實問す法律大博士刑の適用如何

嗚呼滅六國者。六國也。非秦也。族秦者。秦也。非天下也。(杜牧之)

佛氏の所謂自業自得因果應報……汝自身を怨めよ

天下惡乎定。吾對曰定于一。

(孟子)

誰か能く之を一にせん……輿論

紂有臣億萬。惟億萬心。周有臣三千。惟一心。

(尙書)

一滴水赤子も掬り得る……一海水丈夫も汲み得ず……國力の強弱は人心の離合

凡言拙而直。逆耳違意。初聞若可惡者。此忠臣之言也。……言婉而順。希旨合意。初聞若可喜者。邪臣之言也。……陰有奏陳。而畏人知者。皆挾言於外。不畏人知者。皆公言也。……(歐陽脩)

(歐陽脩)

尙し一種の言法を編纂せば……民法刑法の外……其れ此語を以て第一條第一項に置き……瞬間に於て判決し得ん……原被兩造の忠邪公私を……世を惑わすの徒畏散し國を誤るの不愧死せん……古語に曰く貌言華也至言實也苦言藥也甘言疾也亦た是れ名言金言

夷狄不可以中國之治治也。譬如禽獸然。求其大治。必至於大亂。

先王知其然。是故以不治治之。治之以不治者。乃所以深治之也。

(蘇東坡)

夷狄中國の治を以て治む可らざれば中國夷狄の治を以て治む可らず……冥頑時代に代議政度を……自由國民に抑制政治を……禍亂沸騰……干渉に陥らざ亦た放任に失せず……不治の治は是れ治の治

功成。名遂。身退。天之道。

(老子)

政治家の進退……若し夫れ官を以て自己不動産と爲し老死して譲らず……彼胡爲者

敬慎威儀。惟民之則。

(毛詩)

威儀を敬慎……人畏れて之を仰ぐ……威儀を假粧す……人嘲つて之を嗤ふ

養生。復民性。禁民非。治天下之三要。

(薛文清公)

恒産あれば恒心あり……恒心あれば恒行あり……非を禁せずして非自から息む

知彼知己。百戰不殆。不知彼而知己。一勝一負。不知彼不知己。每

(孫子)

戰必敗。

外交政略の秘訣

以天下與人易。爲天下得人難。

(孟子)

人に與ふるは則ち辭職……易きに似て實は難し……人を得るは則ち任官……難きに似て或は易し……
夫功之成。非成於成之日。盖必有所由起。禍之作。不作於作之日。亦必有所由兆。

(蘇老泉)

原因結果

興天下同利。除天下同害。天下歸之。

(荀子)

語を寄す政治家公等自身は化して一種無形の國を爲れ

爲可爲於可爲之時。則從。爲不可爲於不可爲之時。則凶。

(楊雄)

齊人有言雖有智慧不如乘勢雖有鐵基不如待時……彼是一意

知者之事。必計國家百姓所以治者。而爲之。必計國家百姓之所
以亂者。而辟之。然計國家百姓之所以治者何也。上之爲政。得下
之情。則治。不得下之情。則亂。

(墨子)

治まる所以のものを避けて而して亂る、所以のものを爲す……智者と謂ふ可んや……下情も得ず否得ら
れて得ま……智者と謂ふ可んや……噫

勞心者治人。勞力者治於人。

治者被治者の區別

夫國家之所以存亡者。在道德之淺深。而不在乎疆與弱。歷數之所以長短者。在風俗之厚薄。而不在于富與貧。

(蘇東坡)

道德深ければ忠勇義烈の氣生ず……國隨つて強し……風俗厚ければ勤勉勵精の氣生ず……民隨つて富む

陽德方享。而能以貴下賤。大得民也。

(周易)

蕪蕪に詢る……善言を拜す……貴を以て賤よ下る果然民心服す……獨夫紂彼何如

天網恢々。疎而不失。

(老子)

疎且つ漏さず況んや密をや

明主有私人。以金石珠玉。無私人。以官職事業。是何也。曰本不利於所私也。

(荀子)

官職を以て人に私しするは即ち人の爲に官を設くる也……野蠻時代の通弊……今也則亡

法者天討也。以公守之。以仁行之。

(薛文清公)

法は天下の公有よして一人の私有に非らず……天は無私の心生民の意……此心を以て彼を守り此意を以

て彼を行ふ……天討たる所以……然らば人は人誅たるのみ復た何をか畏れん

夫竊位之人。天奪其鑿。雖有明察之資。仁義之志。一日富貴。則背親捐舊。喪其本心。疎骨肉。而親便辟。薄知女。而厚大馬。寧見朽貫千萬。而不忍貸人一錢。情知積粟腐倉。而不忍貸人一斗。骨肉怨望於家。細人謗譏於道。前人以敗。後爭襲之。誠可傷也。歷觀前政。貴人之用心也。與嬰兒子何其異哉。嬰兒有常病。貴臣有常禍。父母有常失。人君有常過。嬰兒常病傷於飽也。貴臣常禍傷於寵也。哺乳多則生痲病。富貴盛則致驕疾。愛子而賊之。驕臣而滅之者。非一也。極其罰者。乃有仆死深牢。銜刀都市。豈非無功於天。有害於人者乎。夫鳥以山爲卑。而增巢其上。魚以泉爲淺。而穿穴其中。卒所以得者。餌也。貴戚願其宅吉。而制爲令名。欲其門堅。而造作鐵樞。卒其所以敗者。非苦禁忌少。而門樞朽也。常苦崇財貨而行。

驕僭耳。不上順天心。下育人物。而欲任其私智。竊弄君威。反戾天地。欺誣神明。居累卵之危。而圖泰山之安。爲朝露之行。而思傳世之功。豈不惑哉。豈不惑哉。

(王符)

驕臣

眩眩の藥

政治法律

Liberty is not the right of one but of all.——Herbert Spencer.

自由は一人の私権にあらずして天下の公権あり

(ハーバート、スペンサー)

The people are the only sovereigns of any country.——R. D. Owen.

人民は國家唯一の主権者なり

(アール、デイー、オウエン)

In a despotism there is at most but one patriot, the despot himself.——Proverb.

専制國には只一人の愛國者あり専制君主其人のみ

(古語)

Right is the eternal sun; the world cannot delay its coming.——Wendell Phillips.

正義あるものは萬古不易の大陽にして世界は決して之

れを拒絶する事能はせ

(ヴェンデル、フィリップス)

The will of the people is the best law.——U. S. Grant.

人民の意志は最良の法律なり

(ヘー、エス、グラント)

By gaining the people, the kingdom is gained. By losing the people, the kingdom is lost.——Confucius.

人民を益すれば則ち國家を益し人民を損すれば則ち國家を損す
(コンフューシアス)

“Now call we our high court of Parliament,

And let us choose such limbs of noble counsel,

That the great body of our state may go

In equal rank with the best govern'd nation.——Henry IV.

今ま朕は國會を召集するに當つて朕等をして我が王國

の偉躰を驅つて能く他の最良政治の下にある國民と共に並馳し毫も相譲らざるが如き健脚を具有せる貴重なる代議士を撰出せしめよ
(ヘンリー四世)

Honesty is the best policy.

正直は最良の政畧なり

(古語)

漸死せし……自稱權謀家

Power, carried to extremes, is always liable to reaction.——Rufus Choate.

權力の濫用は常に反動力を導く者あり

(ルーファス、チャート)

The ruin of a state is generally preceded by an universal degeneracy of manners and contempt of religion.——Swift.

風俗の壞敗及び宗教の衰頽は蓋し亡國の兆なり

(マ # ノ ト)

When liberty is gone, life grows insipid and has lost its relish.—Addison.

人生苟も自由を失はば則ち死者と何を擇ばん

(マ マイ ソン)

The office should seek the man, not man the office.—Silas Wright.

人の爲めに官を設くるにあらざして官の爲めに人を求むるなり
(サイラス・ライト)

Public opinion, though often formed upon a wrong basis, yet generally has a strong underling sense of justice.—Abraham Lincoln,

輿論あるものは時に或は誤れるをを保せんと雖ども多くは鋭敏ある正道の智覺を具有せるものあり
(アブラハム・リンコルン)

Sound policy is never at variance with substantial justice.—Dr. Parr.

確固たる政略とは蓋し眞實の正道に異ならざ

(ドクトル・パル)

No government is safe unless it is protected by the good-will of the people.—Nepos.

人民の好意に由て保護せらるゝにあらざんば如何ある政府も安全ある能はざ
(ネポス)

No none will we sell, to none will we deny, to none will we delay, right and justice.—Magna Charta.

誰か權利及正道を私せんと欲する者ぞ吾人は斷して之を賣ることを許さず誰か權利及正道を享けんと欲する者ぞ吾人は斷して之を拒むこと能はざ又た誰か權利及

正道を保たんと欲する者を吾人は斷して之を支ふることを能はせ (英國大憲章)

The poorest man may in his cottage bid defiance to all the forces of the crown.

It may be frail,—its roof may shake, winds may blow through it, the storm may enter, the rain may enter; but the king of England can not enter.—

—Chatham.

赤貧の細民も猶ほ其茅舎中にあつて王公の威力に抵抗するを得るものあり蓋し其基礎の脆弱なる其屋宇の動搖せる風戦を雨襲ふ然れども我が英國國王の敢て一步を侵せざるを許さず (カザム)

The worth of a state, in the long run, is the worth of the individuals composing it.—Mill.

一國の價值は畢竟之を組織せる一箇人の價值に外あらざる (ミル)

Those who think must govern those who toil.—Goldsmith.

心を勞する者は治め力を勞する者は治めらる

(ゴールドスミス)

Justice is the fundamental and almost only virtue of social life, as it embraces all those actions which are useful to society.—Volney.

正道は社會生活上唯一の懿徳あり何となれば社會有要の行爲は一に正道に基く者なればなり (ボルネー)

In a free country there is much clamor with little suffering; in a despotic state there is little complaint, but much suffering.—Carnot.

政府の過失些微あるも猶ほ非難の聲囂々たるは蓋し自由國の眞況にして政府の過失莫大なるも猶ほ殆んど非難の聲を聞かざるが如きは壓制國の實觀あり

(カーノット)

Sir, I would rather be right than be President.——Henry Clay.

君よ余は大統領たらんよりは寧ろ正義の人たらん

(ヘンリー・クレイ)

Public opinion is the atmosphere of society, without which the forces of the individual would collapse, and all the institutions of society fly into atoms.——

W. R. Alger.

輿論は社會の大氣なり故に社會にして輿論なからんう
則ち人民自由の勢力は去つて地底に沈淪し社會の組織

は散して土崩瓦解するに至らん

(ダブリュ、アール、ナルガー)

The love of liberty with life is given.——Dryden.

自由を愛するは是れ天賦

(ドライデン)

If you do not know how to lie, cheat, and steal, turn your attention to politics and learn.——H. W. Show.

諸君にして若し詐偽欺罔及奪掠の如何ある者たるやを
知らざんば請ふ意を政治學に注げ蓋し之を知るに庶幾
からん

(ヘーチ、ダブリュ、ミョー)

聞くも思はし……詐偽……欺罔……奪掠……野蠻政治の本色

The very name of a politician, a statesman, is sure to cause terrors and hatred; it has always connected with it the ideas of treachery, cruelty, fraud, and tyranny.——Burke.

政治家なるものは人をして唯だ其名を聞くも既に畏懼

忌憚の念を扛起せしむ蓋し政治家と云へば則ち叛逆家
殘暴家欺罔家及虐政家と云ふが如き感情を牽從せしむ
るを以てなり

あふ心苦し……野蠻國政治家の真相

Nothing is politically right which is morally wrong.—Daniel. O. Connell.

凡て道德上に於て不正あるものは政治上と雖も亦た
必ちらば不正あるを免かれず

(ダニエル、オー、カンチル)

As adversaries in law strive mightily; but eat and drink as friends.—Shakespeare.

法律上の仇敵としては互に力争するも朋友としては互
に飲食を興にす

(セイクスピア)

To think as you please, and speak as you think.—Tacitas.

其欲する所に從て考へ其考ふる所に從て談せよ

(タシタス)

精神の自由……言論の自由

Evil for evil, a good despotism in a country at all advanced in civilization, is
more noxious than a bad one, for it is far more relazing and enervating to the
thoughts, feelings and energies of the people.

文明國に適用するに暴虐なる専制政治を止めて善良な
る専制政治を以てするは所謂暴を以て暴に易ふる者に
して其害却て前者に優れるを見るなり何とあれば人民
の思想感情及氣慨をして益々衰耗に傾かしむるを以て
なり

(ミル)

暴虐なる専制政治と善良なる専制政治とを取て之を比較するに前者の後者に於けるは猶ほ火の水に於け
るが如し……火の爲めに焼かるゝ者は少く水の爲めに溺るゝ者は多し宜なり後者の害却て前者に優る…
…若し其れ羅馬をしてオーガスタスの治ならしめば豈タイベリアスの難あるを知らんや

The tendency of party spirit has ever been disguise and propagate and support error.—Whately.

黨派心の傾向は爲めに過失を發生し及び却て之を扶助するの弊害あること古來其例少うらむ

(ウヘー、トレー)

拳々服膺せよ……世の政黨者流

A thousand years scarce serve to form a state; an hour may lay it in the dust.

—Byron.

其起るや一千年の星霜を積むも未だ其國をなほに足らざるに其滅ぶるや忽焉一瞬

(ハイ、ロ、ン)

If any one attempts to haul down the American flag, shoot him on the spot.—

—John A. Dix.

其誰たるを問はむ苟も我亞米利加の國旗を蹂躪せんとするものあらば吾人は立どころに之を誅せん

(ジョン、ホー、ディクス)

The government of a nation itself is usually found to be but the reflex of individuals composing it. The government that is ahead of the people will be inevitably dragged down to their level, as the government that is behind them will in the long run be dragged up.—Smiles.

國民の政事は通常之を組成せる一箇人の反照に外ならむ是故に人民の真相にして善美あらんか假令其政事は善美あらざるあるも早晚進歩して遂に人民と共に平行するに至らん之と等しく獨り政事の外觀のみ善美あるも人民の真相にして善美あらざらんか其政治は必を退

歩して遂に亦た人民と共に平行するに至らん

(スマイルス)

所謂人民は政事の實體にして政事は人民の虚影なるもの

Be just, and fear not; let all the ends thou armist at be thy country's, thy god's, and truth.

正直なれ恐るゝを止めよ汝の懐抱せる満腔の熱望をし
て汝の邦國汝の天帝及び真理にのみ向て注がしめよ

(セーンスピア)

Alas, the insertitude of the law.

法律の確定せざる……嘆きをぞ哉 (バーク)

The world must be governed without regard to individual actions.——Napoleon.

天下を治むるの道は不偏不黨敢て一箇人の行爲に係累

せざるを要す (ナポレオン)

眼を全体に注ぐ……治國の要道

I have bought golden opinions from all sorts of people.

余は一般人民より金玉の説を購ふを得たり

(セーンスピア)

輿論の價值

Whenever the sphere of action of human beings is artificially circumscribed, their sentiments are narrowed and dwarfed in the same proportion. The good feeling is action; even domestic affection lives upon voluntary good offices. Let a person have nothing to do for his country, and he will not care for it.

苟も人間行爲の範圍にして妄りに人爲に由て制限せら
るゝことあらば其感情も亦之れに伴ふて縮小するや必

せり蓋し行爲は感情を導くの主因にして感情は行爲に
従て消長をる者なればなり見よ人の各其家を思ふは身
親から其家政に關係をるを以てにあらずや夫れ然り然
らば則ち假りに國民をして毫も其國事に參與をること
なからしめんか愛國の志士其れ安くに之を求めん

(ミル)

隣家の愁嘆は馬耳東風……食客は其家を思はず……蓋し行爲は感情の母無關係なるが故に無感情

Party zeal runs into falsehood.—J. Q. Adams.

(ゼー、キュー、アダムス)

I hope to find my country in the right; however, I will stand by her, right or
wrong.—G. S. Crittenden.

余は自國をして勉めて正義の國たらしめんことを願へ

り然れども一朝事あるに當ては其正たると不正たると
を問はを常に之れが爲めに盡さんと欲そ

(ジー、エス、クリッテンデン)

是れ忠……是れ義……國家と共に生死存亡を俱にするもの

It is on opinion only that government is founded.—Hume.

輿論は政府の成立せる根據なり (ヒューム)

Give me liberty, or give me death.—Patrick Henry.

我に自由を與へよ然らざれば死を與へよ

(パトリック、ヘンリー)

Power is founded upon opinion.

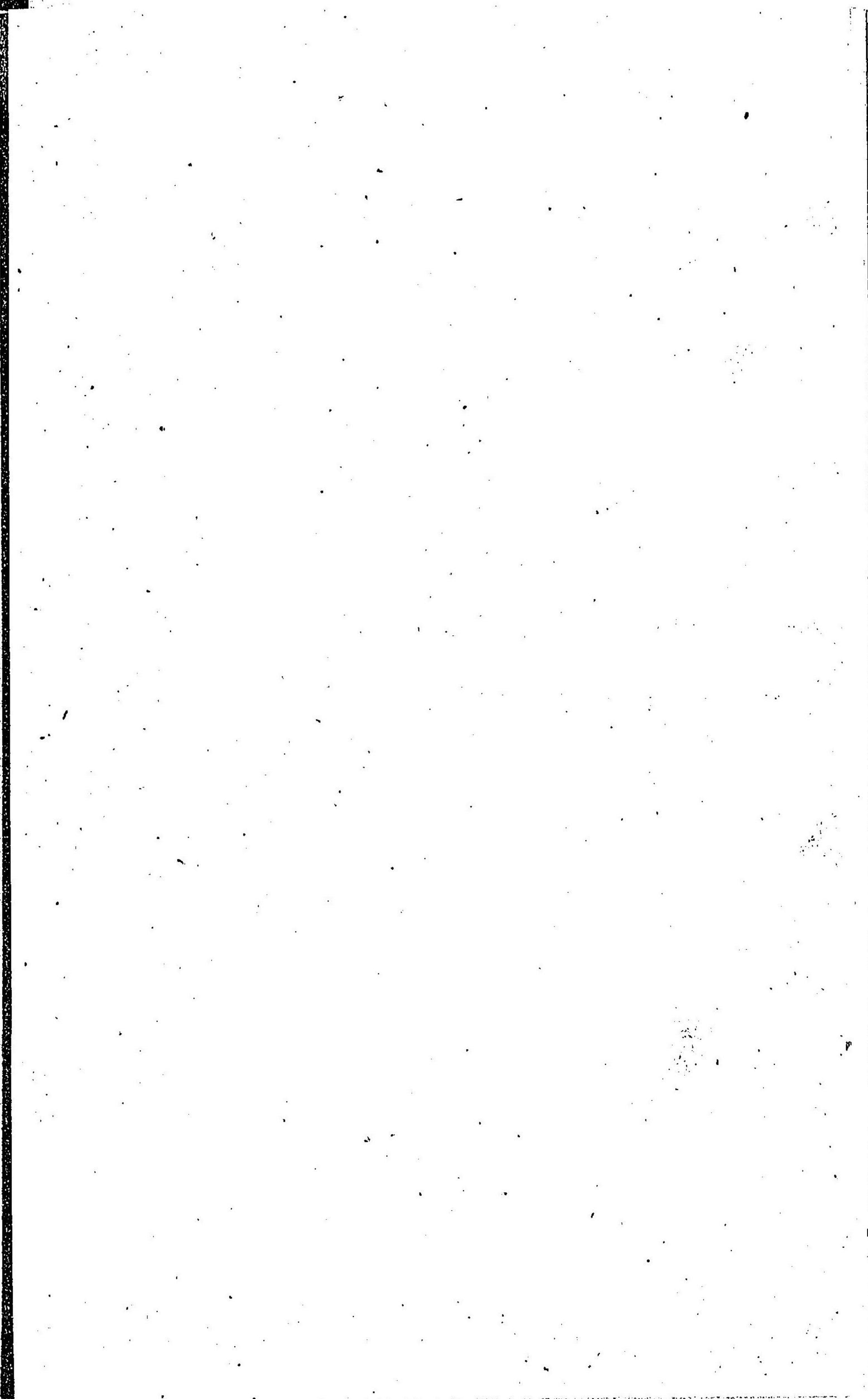
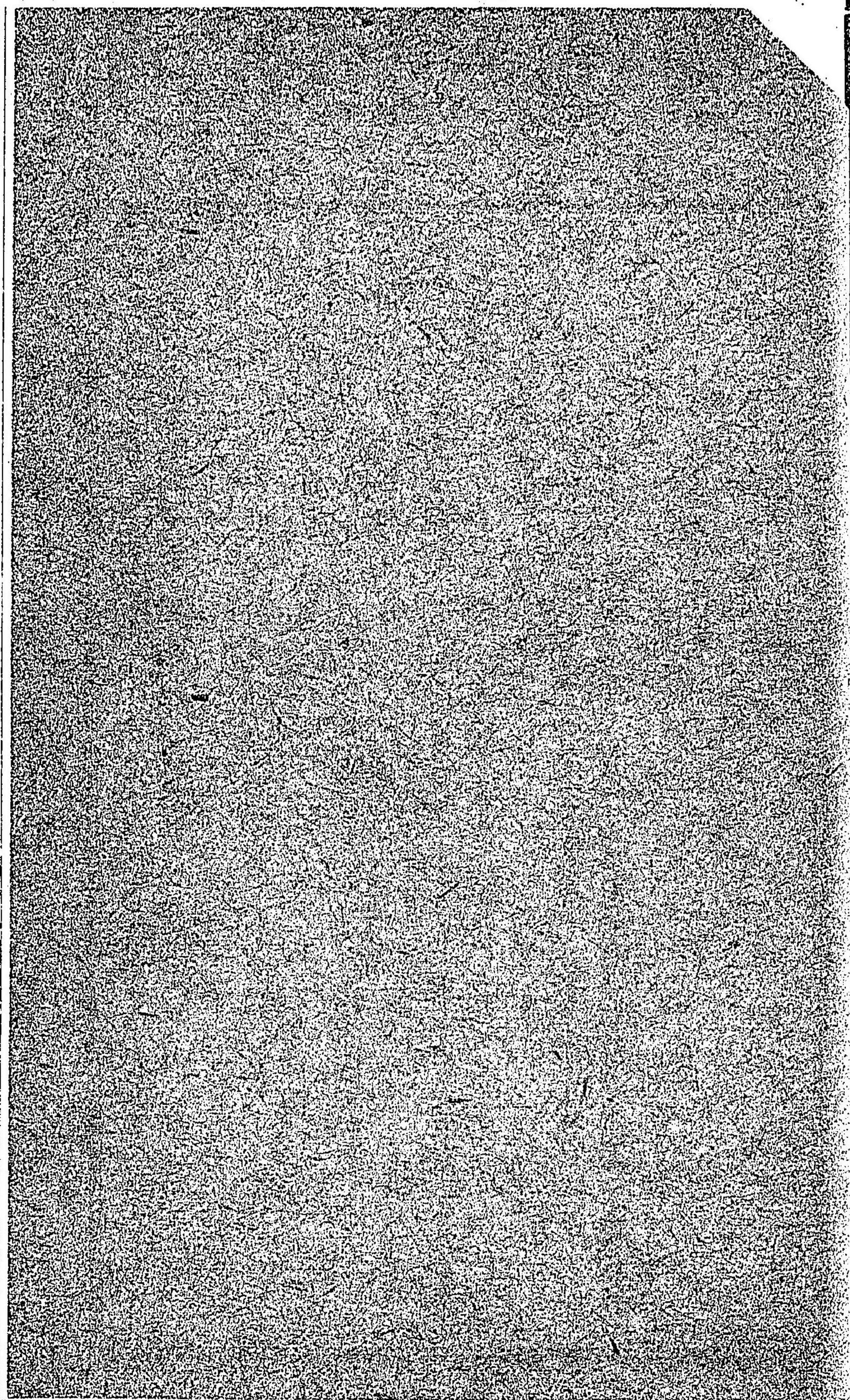
輿論の歸する處は即ち權力の生をる處

(ナポレオン)

That honesty is the best policy, is a maxim which we firmly believe to be generally correct, even with respect to the temporal interest of individuals; but with respect to societies, the rule is subject to still fewer objections, and that for this reason that the life of societies is longer than the life of individuals. It is possible to mention men who have owed great worldly prosperity to breaches of private faith. But we doubt whether it be possible to mention a state which has on the whole been a gainer by a breach of public faith.—Macaulay.

正直は最良の政畧ありとは千古の確言にして吾人は之を以て一箇人蟬蛻の生活に適用するも猶ほ其大過なきを知るなり況んや社會に適用するに於てをや蓋し社會の生活は一箇人の生活に比して甚だ永久なるものなれば假令一箇人にして正理に違ふも時に或は天命を全ふ

して人生の幸福を享有し得るなきを保せざと雖ども社會にして公道に背くことあらんが到底永遠の利益を維持すること能はざ
(マコーレー)



道德文學

正言若反。

(老子)

跛者聾者聾者聾者伍す……一具人を指して嘲る……跛者は其の立行を嘲る聾者は其の放談を嘲る聾者聾者各様各嘲……蓋し己れに反するを嘲り却て以て不具人を傲す……正言の俗言に反する縱然嘲らるゝも吾れ請ふ之と興みせん

道雖邇。不行不至。事雖小。不爲不成。

(荀子)

道……愈らす往かは千里の先きも見ん牛の歩みの好し遅くとも……事……王之不王不爲也非不能也

人能弘道。非道弘人也。

(孔子)

道は死物必ず活人を要す……尋章に拘々摘句に泥々……活人にして死物に籠絡せらる……凝つてハ思索に能はず……程好くせよ學者

人之有德慧術知者。恒存乎疢疾。

(孟子)

艱難は幸福の母

欲人勿聞。莫若勿言。欲人勿知。莫若勿爲。

(枚乘)

秘密々々又秘密……乃公何を憚る……氣て氣を病む……山深雲深處……坐禪せよ

事以密成。語以洩敗。

認め得たり秘密家の道路

誠者天之道也。誠之者人之道也。

中庸全篇の主意而して人間萬事の樞紐

脅肩諂笑。病于夏畦。

一語一笑……東學の六韜三略……農より勞かれん……亦た農より利からざるや

滿招損。謙受益。

自慢高慢馬鹿の中……下た手に組めば屹度勝つ……世渡りの心得

欲富乎。忍耻矣。傾絕矣。絕故舊矣。與義分背矣。

冷諷……冷刺……冷諷……アイスクリーム者流(高利貸別號)をして冷汗涔々下らしむ

千人萬人之情。一人之情是也。天地始者。今日是也。百王之道。後王是也。

天地は一借家萬物は一借具而して人ハ其の借主かり借主未だ生れざるの前借家借具あるを知らず豈に生れて始めて借るに非らずや既に死するの後亦た借家借具あるを知らず豈に死して始めて返すに非らずや故に李太白曰く天地者萬物之逆旅光陰者百代之過客而浮世若夢爲歡幾何と若し夫れ今日の我と天地を以て昨

(韓 非)

(子 思)

(曾 子)

(尙 書)

(諺)

(荀 子)

日の我と天地を見る杳然逝いて影なし復た誰か追ひ得ん復た誰か捉へ得ん豈に今日の我と天地は昨日既に死して今日始めて生れたるに非ざる歟然は則ち明日將に何れに往かん明日の我と天地を以て今日の我と天地を見る其れ猶今日の我と天地を以て昨日の我と天地を見るか如き乎嗚呼吾人は今日の借家に棲息し今日の借具を使用し朝露の生命を以て白駒の光陰に托す只た當に今日の務むべきものを務め今日の盡すべきものを盡し以て今日の借主たる義務を履行すべきのみ……首尾二句……首は人情の相去る遠からざるを謂ひ尾ハ先聖後聖其揆一なるを謂ふ

慷慨赴死易。從容就義難。

吾黨獨り然らず……從容就義易語俟赴利難

凡說之難。非吾知之有以說之難也。又非吾辨之難。能明吾意之難也。又非吾敢橫佚。能盡之難也。凡說之難。在知所說之心。可以吾說當之。

演說學一斑

善人不善人之師。不善人善人之資。

醜婦あつて美人ひかる……詩云わすや他山の石以て玉を攻む可し

大丈夫心事。當如青天白日。使人得而見之可也。

(薛文清公)

(老 子)

(韓 非)

玲瓏澄澈明鏡の如し……妨げず人の自由に對鑿すると……汚穢醜陋蕪土管ならず……縱然人をして得て之を見せしむるも……人避けて見ま

萬事莫貴於義

(墨子)

而して偽より賤しきはなし

天下無二道。聖人無兩心。

(荀子)

道は一のみ理豈に二あらんや

人之患在好爲人師。

(孟子)

日本外史一部「パリーイ」萬國史一卷……先生氣取……五歩一校十歩一舍……鄒夏幸に諒せ致て小成に安んずるに非らず……窮を以て……

君子成人之美。不成人之惡。小人反是。

(孔子)

人の美を披露すれば人亦た我が美を披露す……相持ち……人の惡を吹聴すれば人亦た我が惡を吹聴す……お互ひ……

天作孽。猶可違。自作孽。不可活。

(尙書)

身から出た錆……此錆遂に身を蝕き……微に於て拭ひ去れ

吾無過人者。但平生所爲。未嘗有不可對人言者耳。

(司馬光)

仰いて天に愧ぢず伏して人に忤ちず……道德家の真相

士當以器識爲先。一號爲文人。無足觀矣。

(劉摯)

萬卷を讀み一事を成さず……盡々子々……書淫ならずや……器識なきに坐すのみ……何人が看破す無字の書

丈夫爲志。窮當益堅。老當益壯。

(馬援)

富んで窮するか如く……道々栖々……壯にして老するか如く……卑々屈々……伏波將軍の敵

我有三不惑。酒色財也。

(楊秉)

石部金吉鐵兜

大丈夫當雄飛。安能雌伏。

(趙温)

國會議員候補の競争……書生諸君洋行の希望

伯樂一過冀北之野。而馬群遂空。夫冀北馬多於天下。伯樂雖善知馬。安能空其群耶。解之者曰。吾所謂空。非無馬也。無良馬也。伯樂知馬。遇其良。輒取之。群無留良焉。苟無良。雖謂無馬。不爲虛語矣。

(韓文公)

此を以て之を求む……政治界法律界文學界道德界……箇般冀北の野漫く看る馬群の空々如たるを

有大人之事。有小人之事。

(孟子)

富者人之情性。所不學而俱欲者也。

(司馬遷)

道不同。不相爲謀。
學はすして欲す……乍併……學はされし得す……經濟學の必要

(孔子)

出乎爾者。反乎爾者也。
宜哉大同改進黨の相容れざるや

(曾子)

君子之過也。如日月之蝕也。過也人皆見之。更也人皆仰之。
積善の餘慶に於る……積惡の餘殃に於る……

(子貢)

君子素其位而行。不願乎其外。
小人其過を飾る……然れども害尙少……君子にして其非を遂げんさす……罪萬死……大は國を滅し小は身を亡ぶ……猛省せよ。反求せよ。克己せよ。

(子思)

思不出其位。

(周易)

茲云ふ位は位地の位にして爵位の位に非らず……分限相應……灯燈にして釣鐘たらん事を願わさるを謂ふ……小心

舜何人也。予何人也。

(顏淵)

彼丈夫也。予丈夫也。

(成颺)

大膽……眼中無人的氣概を有せずんば空前絶後の事業成らず

君子疾沒世而名不稱焉。

(孔子)

一休和尚……人の身ハセミの畑の雪佛消へての後は名計りよころ

學問之道。無他。求其放心而已矣。

(孟子)

手習は坂に車を押す如し油斷をすれば跡へ戻るぞ……油斷大敵

知不知上。不知知病。夫唯病病。是以不病。聖人不病。以其病病。是以不病。

(老子)

滿天下の奇才子……知らずして知るを粧ひ學ハすして學ふを擬す……故曰く才子多病と阿々

良農不爲水旱不耕。良賈不爲折閱不市。士君子不爲貧窮怠乎

道。

(荀子)

窮風一陣……道を柱け義を柱け志を柱け節を柱け言を柱く……士君子の定價一ト山二錢三八厘……お安

養性者。善言不可離口。善藥不可離手。

(孟詵)

上旬ハ心を養ひ下旬は体を養ふ……世間衛生家体の衛生を知つて心の衛生を知らず……外は則ち牛乳羊肉内は則ち狼心狐念……猿は馬鹿氣た衛生法

學者當以窮理爲先。

(王鶚)

誦書當味義根。

(劉敏言)

所以求學者。義理之奧也。

(王埜)

究理と察々……實用に味々……居然腐儒

文章須自出機杼。成一家風骨。何能共人同生活也。(祖瑩)

「マコーレイ」の行文道塵「ジョンソン」の奇想變幻韓柳の局面歐蘇の字句……稜嶒たり一家風骨……近來文人空腹極る……紙り盡す古人の餘唾……米價騰貴の影響亦た文人に及ふ乎一笑

人自量。固爲難。

(江敦)

我が身て我が身が分らない……虚心平氣の權衡は自家絶好測量器

今取猿狙。而衣以周公之服。彼必齧鬣挽裂。盡去而後慊。觀古今之異。猶猿狙之異乎周公也。故西施病心。而曠其里。其里之醜人。見而美之。歸亦捧心。而曠其里。其里之富人見之。堅閉門而不出。貧人見之。挈妻子而去之走。彼知美曠。而不知曠之所以美。

(莊子)

日本に生るゝもの日本と奉せざる可らる西洋も生るゝもの西洋と奉せざる可らる固より當然の理のみ近時人心新に酔ひ奇に耽り其衣を洋にし其食を洋よし其居を洋にし其語を洋にし其字を洋にし甚しきは其眼光を縁にし其顔色を白よし其頭髮を緒にせんま是れ亦た一西洋人のみ安んそ日本人たるに在らんや政治を語れば曰く共和教法を語れば曰く耶蘇倫理を語れば曰く男女同權曰く自由結婚甚しきは人種改良の論あり外人法官の議あり是れ亦た一西洋國のみ安んそ日本國たるに在らんや夫れ西洋國は文明なり日本人たるもの彼の長を取り我が短を補ふ可也彼の利を取り我が害を除く可也是れ日本を奉するの道に非らずや然るに彼れ徒らに文明の皮相に眩し文明の真相を窮めず却て彼の短や害やを取り以て我が長や利やを損せんます猿狙をして周公の服を服せしむるに非らまして周公をして猿狙と擬せしめ醜人にして西施の鑿に倣ふに非らずして西施にして醜人に倣わんます極端の弊滔々乎さして底止まる所を知らず彼れ果して何の心そや吁果して何の心そや

人皆因祿富。我獨以官貧。所遺子孫。在於清白耳。(房彥謙)

此人胸中果然光風霽月……多少鯨公鱸子胡爲ぞ混濁の水に喰喝して清白の水に游泳せざる
無冥々之志者。無昭々之明。無昏昏之事者。無赫赫之功。

(荀子)

鶻鳥將に搏たんとす先つ其翼を歛む……尺蠖將に伸ひんとす先つ其形を屈ま

人之相知。貴相知心。

(李陵)

面を知るを以て友と爲す……醜婦治耶儒夫佞人乞兒も亦友……人をして嘔せしむ……世上汎交家頂門一針

天道無親。常與善人。

(老子)

善人よして鸚鵡漂零……是れ未だ善の足らざるか……敢て天道を問ふ

非聖人之書。不可觀。無益之詩文。不作可也。

(黃震)

吾れ曰く經世の書に非らざれば讀む可らず席上の空論叩かすして可也

盡信書。則不如無書。

(孟子)

可信的の語と不可信的の説とを取捨するは……識……何處より得來る……一は學術一は經驗

人小而聰了。大未必奇。

(陳煒)

才子恃才愚守愚少年才子不如愚請看他年成業後才子不才愚不愚

大丈夫處世。當掃除天下。安事一室乎。

(陳仲舉)

下宿の二階往々此人を現し出す而して天下を掃除するもの鮮なく天下に掃除せらるゝもの多し……席談曰く細不謹況大事乎

唯女子與小人爲難養也。近之則不遜。遠之則有怨。

(孔子)

艶聞博士の女弟子之を見る必ずや張目尖唇して云はん……女子を以て小人と一様視ま咄不粹漢妾等誓つて汝に接吻を許さず

我以不貪爲寶。爾以玉爲寶。若以與我。皆喪寶也。不若人有其寶。

(子罕)

痛ましや賄賂事件否報酬事件……玉を以て寶と爲すは食らざるを以て寶と爲すに如かずや

信言不美。美言不信。

(老子)

言隱於榮華。

(莊子)

斯言華知るべし斯心偽……斯心信知るべし斯言實……言は是れ心の反響

居移氣。養移體。

(孟子)

散歩かてらに注意せよ……氣象の自ら活潑なるは魚屋の専主なり舉動の自ら困頓なるは八百屋の番頭なり書林の小僧は應對自ら四角割煮店の下女は周旋自ら意氣……亦た居氣を移し養體を移す者乎

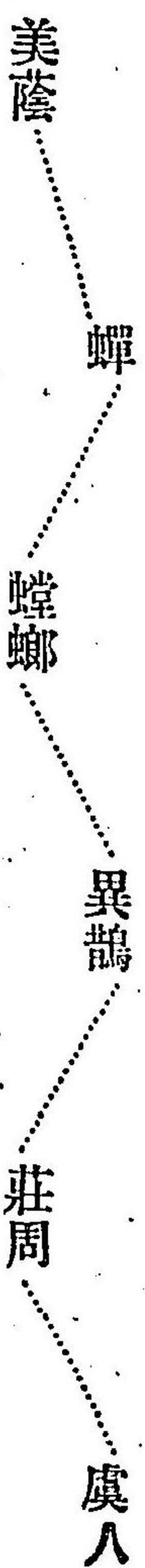
于木光于德。寡人光于勢。于木富于義。寡人富于財。勢不若德。尊財不若義高。
(魏文侯)

何世か段干木其人あつらん但た恨らくは文侯其人なきのみ韓文公云ふ世有伯樂然後有千里馬千里馬常有而伯樂不常有……子擊(文侯の子)問曰富貴者驕人乎賤貧者驕人乎田子方曰亦貧賤者驕人耳……均しく是れ識者之言ふ可く俗物と言ひ難し

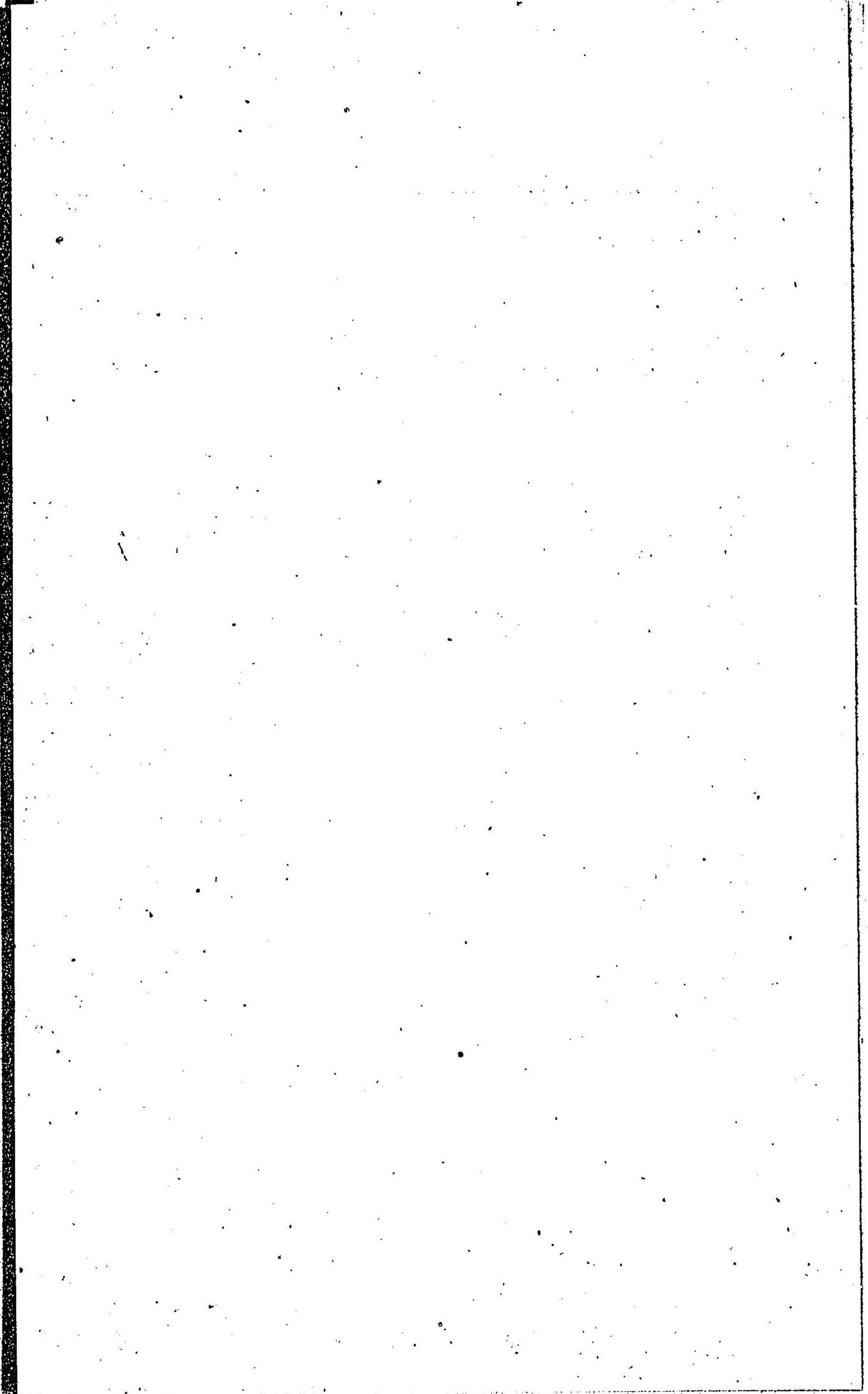
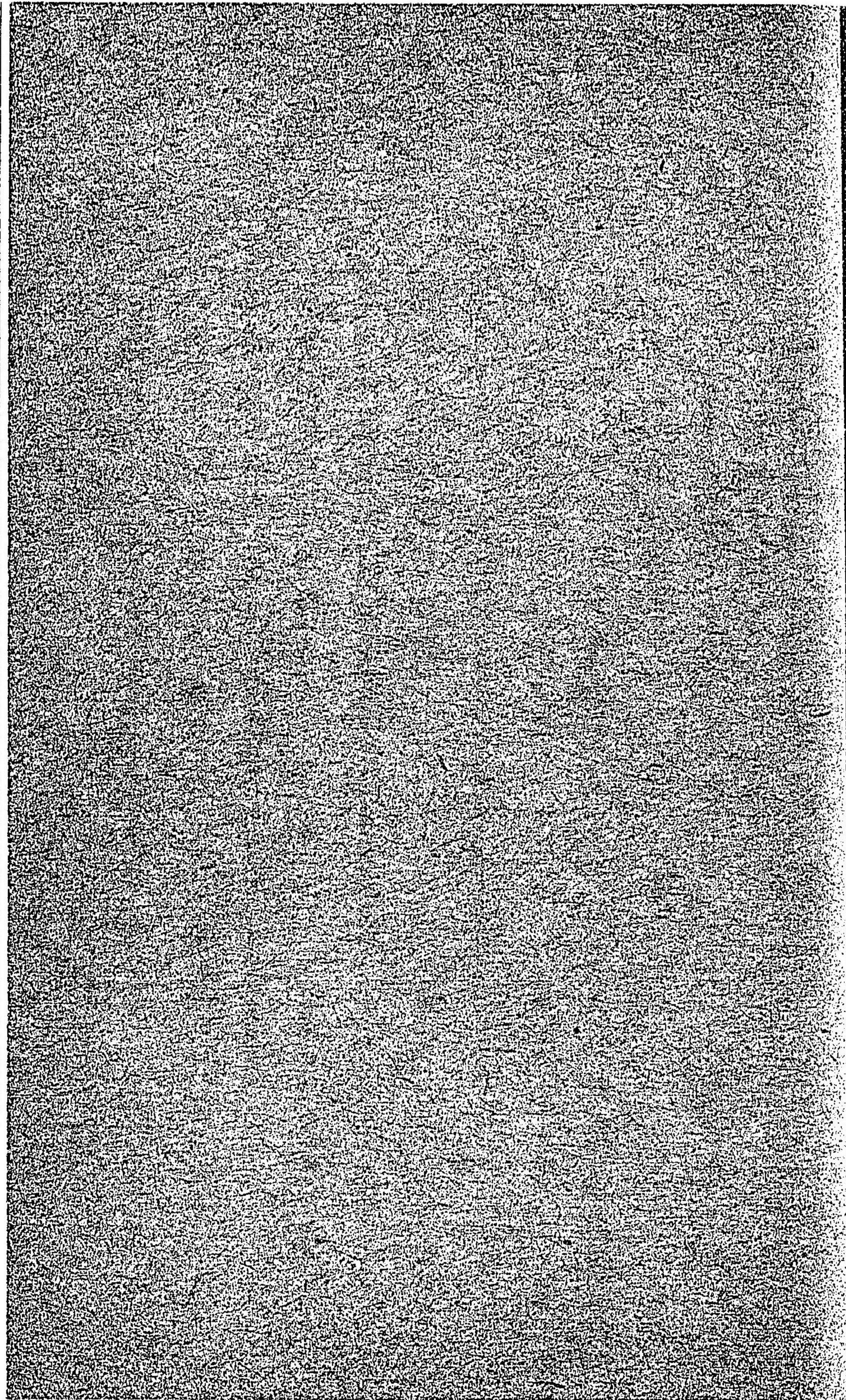
大道廢。有仁義。智慧出。有大偽。六親不和。有孝慈。國家昏亂。有忠臣。
(老子)

仁義と智慧との間挿注して看よ譬猶の二字……意義自ら分明

莊周遊乎雕陵之樊。樊牆也覩一異鵠自南方來者。翼廣七尺。目大運寸。運寸方一寸也感周之類。感觸也類類也而集於栗林。集止也莊周曰。此何鳥哉。翼殷不逝。殷大也目大不規。蹇裳躩步。躩步猶速步造語奇執彈而留之。留之將捉之也覩一蟬方得美蔭而忘其身。螳螂執翳而搏之。搏之亦將捕之也見得而忘其形。異鵠從而利之。見利而忘其身。莊周怵然曰。噫。物固相累。二類相召也。捐彈而反走。虞人逐而諍之。諍罵也
(莊子)



蟬美蔭を見る曰く奇貨居く可し……知らず異鵠の後に窺ふを……螳螂蟬を見る又た曰く奇貨居く可し……知らず異鵠の後に窺ふを……異鵠螳螂を見る復た曰く奇貨居く可し……知らず莊周の後に窺ふを……知らず異鵠の後に窺ふを……我れ利を逐ふ利亦た我を逐ふ相召き相累して終に逐ひ得ず……見渡せよ……社会は競争の社会……社会の事物は競争の事物……競争の社会に在つて競争の事物を料理す幾何が相胥ひて蟬たり螳螂たり異鵠たらさらんや悟道の莊周復た求む可らず唯た虞人冷罵の叱々を聴くのみ



道德文學

Let us do or die.—Campbell.

吾人をして生きて大業をなす能はそんは寧速かに死を
與へよ (キャンプビール)

Be slow in considering but resolute in action.—Beas.

静思にして斷行あれ (ビーラス)

There is no education like adversity.—Beaconsfield.

不幸は最良の教育あり (ビーコンス、フィールド)

Titles are too "thin" for the nineteenth century.—Beacher.

人爵は十九世紀の贅物のみ (ビーチャー)

The only reward of virtue is virtue.—Emerson.

積徳の家には餘徳あり

(エマールソン)

It I lose mine honor, I lose myself.—Shakspeare.

我が名譽を失ふは即ち我身を失ふ者なり

(セリクスビーア)

Ten men have failed from defect in morals where one has failed from defect in intellect.—Horace Man.

茲に智識の欠乏に由て其身を誤る者一人ありとせんか
則ち道德の欠乏に由て其身を誤る者蓋し十人に下らむ

(ホレースマン)

It is better a man should be abused than forgotten.—D. R. Johnson.

可もなく不可もあさよりは寧非難を受くるに若しむ

(ドントド、マヨマン)

If Nature be not improved by instruction, it is blind; if instruction be not assisted by Nature, it is maimed; and if exercise fail of the assistance of both, it is imperfect.—Plutarch.

教育に由て發達せられざる天性は猶は盲人の如し天性
に由て利用せられざる教育は猶は癡人の如し經驗に由
て練磨せられざる天性及教育は亦た必らむ不完全ある
を免かれむ

(プラターターチ)

Vintue is the first title of nobility.—Moliere.

徳は最高の官爵あり

(モリーア)

A boy is better unborn than untaught.—Gascoigne.

兒童にして教育を受くると能はずんば寧生れざるに若
かむ

(ガスコイン)

There is only one proof of ability,——action.——Marie.

才能を表さるは只だ行爲

Action is the parent of result; dormancy, the brooding mother of discontent.—

Mis. Mulock.

勞働は結果の兩親にして逸臥は不満の姪母あり

(ミス、マロック)

Adversity makes men and prosperity makes monsters.——Victor hugo.

不幸は人を生じ榮華は怪物を産す (ビントル、エーゴ)

Ability is a poor man's wealth.——Mathew Wren.

才能は貧人の富みあり

(マッシュエーレン)

Education must bring the practice as nearly as possible to the theory. As the children now are, they will they sovereigns soon be.

教育は勉めて理論と實際の二者に適合せしめざるべからざれば今日の兒童は他日主權を分擔するの公民たるべきを以てなり (ホレーヌ、マン)

Better to die ten thousand deaths than wound my honour.

我が名譽を毀損せんよりは寧甘んして萬死を受けん

(マッシュン)

Morality is the object of government.

道徳は政府の目的なり

(ヒマルン)

The truest wisdom is a resolute determination.——Napoleon.

果斷は真正の智識あり

(ナポレオン)

Next in importance to freedom and justice, is popular education, without which neither justice nor freedom can be permanently maintained.——James A. Garfield.

其緊要の自由及正道に次く者は一般教育是れなり蓋し
教育にめらされば自由及正道を永久に保存すると能は
る
(ゼームス、エーガーフィールド)

Heaven helps those who help themselves.—Proverb.

天は自から助くるものを助く (古語)

The spirit of self-help is the root of all genuine growth in the individual; and
exhibited in the lives of many, it constitutes the true source of national vigor
and strength.—Smiles.

自助の精神は人智の由て以て發生する根基にして此精
神の磅礴する所其功施て萬物に及ぼし遂に一國の元氣
及威勢をだも溉培するの本源とあるあり
(スマイルス)

Man is unjust, but God is just; and finally justice triumphs.

人は邪にして天は正なり而して邪は遂に正に敵せむ

(セクスピア)

蓋し天定つて人に勝つものなり

Action can not always bring happiness; but there is no happiness without ac-
tion.

労働は其都度幸福を持ち來たるものにあらざるも労働
に由らざるは決して幸福を求むると能はむ

(ビーコンスフィールド)

A smooth sea never made a skillful mariner.

静穩なる海は決して熟練なる航海者を出さむ

(古語)

所謂困難は汝を玉にするもの

To become an able man in any profession, there are three things necessary,—— nature, study, and practice.——Aristotle.

其職業の何たるを問はざるも一箇の名士たらんと欲せば之れに必要なる條件三あり何ぞや曰く天性曰く勉強曰く熟練 (アリストール)

Ability is of little account without opportunity.

機會に遭逢するにあらずんば才能と雖も其用をささる (ナポレオン)

There is no moment without some duty.——Cicero.

人は瞬間だも義務なきの時なし (マゼロ)

On the diffusion of education among the people rests the preservation and

perpetuation of our free institutions.——Daniel Webster.

吾人の自由制度をして能く不朽に保護せしむる所以の者は何ぞや他なし民間の教育を擴張するにあるのみ (エドナル・ウエブスター)

A good name is rather to be chosen than great rich.

富貴を得んよりは寧名譽を求めん (古語)

Men do less than they ought unless they do all that they can.——Carlyle.

人は己れの出来得べき凡ての事業をなすにあらずんば未だ其天賦の義務を全ふせりと云ふべからず (カーライル)

Press on! For in the grave there is no work and no device. Press on! While yet you may.——N. P. Wills.

進取せよ苟くも此世に生存する限りは……進取せよ墳墓
の地黄泉の下亦た爲すべきの事業をく行ふべきの計畫
なきなり
(ヘス、ロー、ツ、キルリス)

The pen is a formidable weapon ; but a man can kill himself with it a great
deal more easily than he can other people. — G. D. Prentice.

筆は最も恐るべき必要の武器あり而して世人の之を携
ふる者多くは之をして他人に加ふるの利器たらしむる
能はせして却て自から其身を殺すの兇器たらしむ
(モー、ディー、プレントリス)

Where there is a will there is a way.

精神一到何事か成らざらん
(古語)

Education is a capital to the poor man, and an interest to the rich man.

教育は貧人の母銀にして又た富人の利子あり

(ホレーヌ、マン)

It is necessary to hope, though hope should be always deluded ; for hope itself
is happiness, and its frustrations, however frequent, are yet less dreadful than is
extinction.

企望なる者は仮令常に無効に屬するとあるも決して之
を放棄せざるを要す何とあれば其成不成に拘はらざる企
望其物は即ち幸福にして失敗猶且企望あきに優ればな
り
(ドクトル、ジョンソン)

Whatever man has done, man may do.

彼之を能くせり我豈之を能くせざらんや

(古語)

Duty is a power which rises with us in the morning, and goes to rest with us at night.....It is the shadow which cleaves to us, go where we will and which only leaves us when we leave the light of life.—Gladstone.

義務は吾人と朝夕を共にせる一箇の権力にして影となつて吾人に附着し行かんと欲する所に随ひ世を終るまで遂に吾人の身体を離れぬ (グラッドストーン)

Natural ability without education has oftener raised man to glory and virtue than education without ability.

教育なくして天才あるものと天才なくして教育あるものどを取つて之を比較するに世人の功名榮譽を得しもの後者にあらざして多くは前者にあるを見るなり (シロ)

眞箇一篇の天才教育優劣論

The pen is the tongue of the mind.—Cervantes.

筆は是れ心の舌 (サーバンツ)

Money is the poison for morality.

金錢は徳義の毒藥 (古語)

數文字.....一篇の賄賂排斥論

Intuition will do much, but it will not do all. Only When Genious is married to Science can the great result be produced.—Spencer.

天賦の才能は其用固より大なりと雖も獨り之を以て未だ足れりとなすべからざる才能に配合するに理學を以てして初めて至善至美の結果を生ずるを得んのみ (スペンサー)

It is much easier for an active mind to acquire the virtues of patience, than for a passive one to assume those of energy.

活潑の性質をして忍耐の徳を養成せしむるは易く不活潑の性質をして氣慨の徳を生育せしむるは難し

(三) (ル)

氣慨の活潑性獨得の懿徳よして忍耐の不活潑性特有の懿徳

Let us not run out of the path of duty, lest we run into the way of danger.—

—Rowland hill.

吾人をして義務の大道を歩ましめよ然らざれば或は恐る危難の岐路に陥らんとを

(ローランドヒル)

Great undertakings require great preparations.—Heliodorus,

大器は晩成

(ヘリオドラス)

It is not prudent to oppose perfidy to perfidy—the most efficient weapon with which men can encounter falsehood its truth.—Macoulay.

詐偽を以て詐偽に易ふるは蓋し不可なり虚誕を挫く最

良の武器は只だ誠實にあるのみ (マコーレイ)

To really understand a man, we must judge him in misfortune.

其人とありを知らんと欲せば其不幸に陥れるの時を

待つて之を判せよ (ナポレオン)

盤根錯節に達するに利器を分つて

Blessings are upon the head of just.—Solomon.

正直の首に神やどる

(ソロモン)

Legal suasion may frighten to compliance, but moral suasion rules the will.—

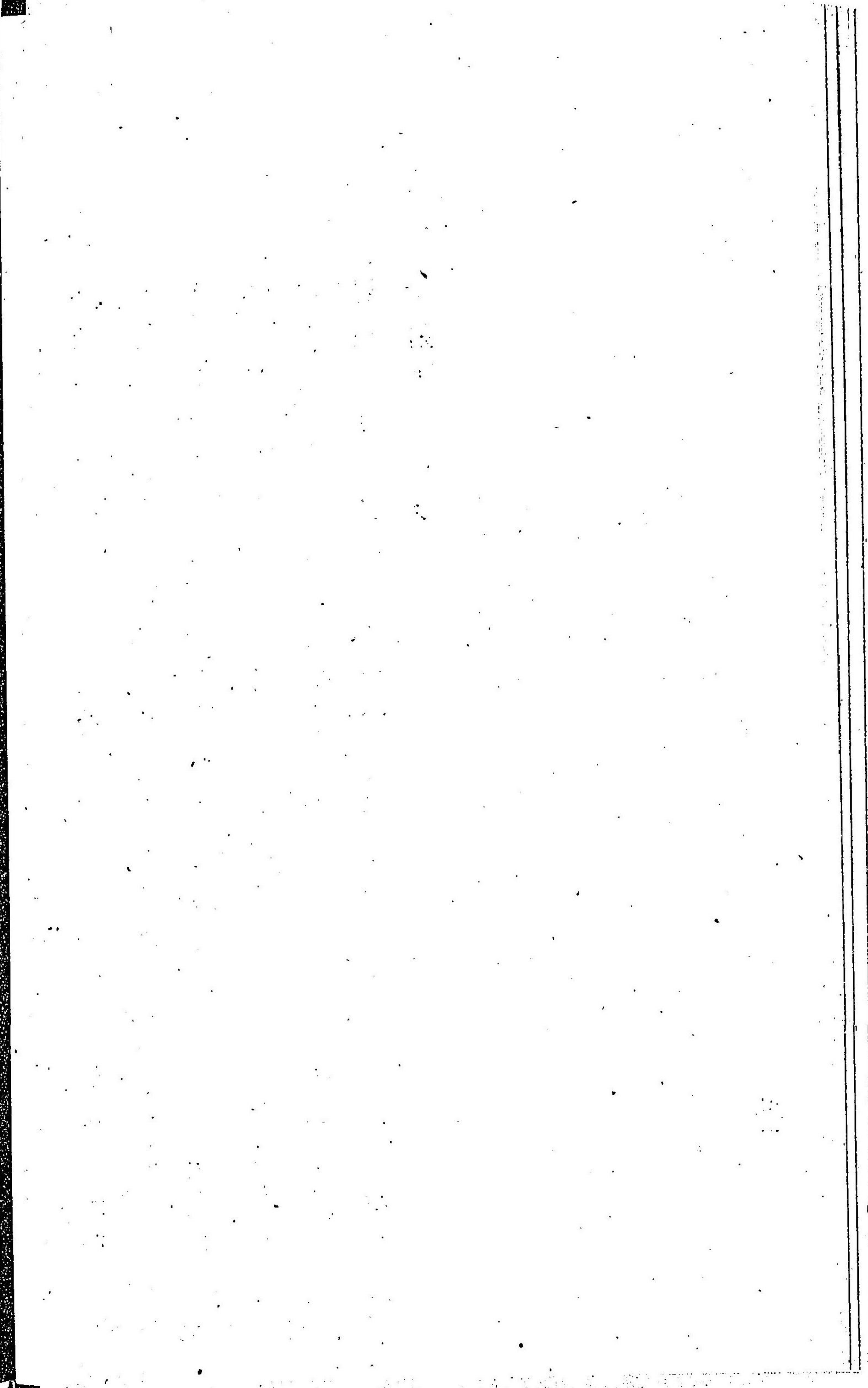
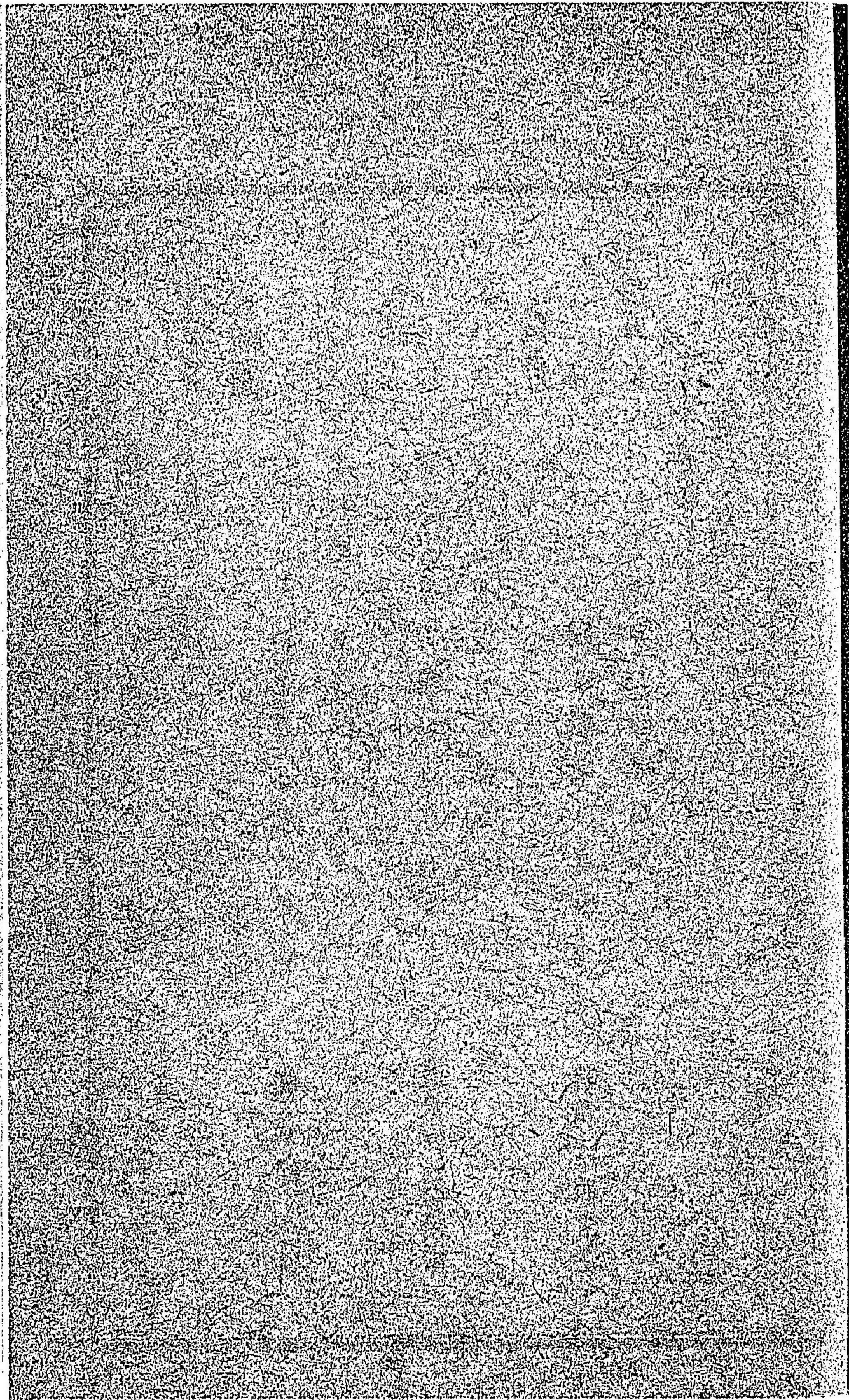
Kate Clarence.

法律は只だ人をして威伏せしむるに過ぎざるも道徳は
能く之をして心服せしむ (メー・ト・シラーレンス)

It is not what we earn, but what we save, that makes us rich. It is not what we eat, but what we digest, that makes us strong. It is not what we read, but what we remember, that makes us learned. It is not what we intend, but what we do, that makes us useful. It is not a few faint wishes, but a life long struggle, that makes us valiant.

吾人をして富貴ならしむる所以の者は蓋し財を儲くる
に由て然るにあらざる其實能く之を貯蓄するにあるあり
吾人をして強健ならしむる所以の者は蓋し食を食する
に由て然るにあらざる其實能く之を消化するにあるなり

吾人をして識者たらしむる所以の者は蓋し書を讀むに
由て然るにあらざる其實能く之を記憶するにあるなり吾
人をして有用の人たらしむる所以の者は蓋し事を企圖
するに由て然るにあらざる其實能く之を實行するにある
なり吾人をして剛毅たらしむる所以の者は蓋し二三の
孱弱ある希望あるに由て然るにあらざる其實能く畢生の
勤勉にあるあり (舌 語)



歌 門

君か代はいわほとともに動かねは

くたけて歸る沖津しらあみ

伴林六郎光平

國徳如山

惜まれて玉とちる身はいさきよし

瓦とともに世にあらんより

眞木和泉守保臣

壯烈如電

つくしてもまた盡しても盡しても

つくしかひなきしつゝ眞心

國分新太郎

誠意如椽

岩菊もくたけさらめやものゝふの

國をさまれと打さみし太刀

有村治右衛門

猛氣如虎

飛鳥川きのふにかわる世のなかの

浮瀬にたつは我身なりけり

國司信濃朝相

高義如殿

つゆをたもいとふやまどの女郎花

ふるあめりかに袖は濡さし

岩龜樓妓喜遊

勁節如松

君かため捨るいのちはをしからて

たゝ思わるゝ國のゆくそる

永井雅樂隆尙

熱腸如燭

しき島のにしきの御旗さゝけもち

すめら御陣の魁かけやせん

佐野竹之助光明

勇進如猪

天津風ふけやにしきのはたの手に

靡かぬ草はあらしとそ思ふ

平野次郎國臣

威風如神

なかれ行く水をはみつと思ふへき

まゝろの心知るひともかき

中村延太無二

衷情如訴

云へはうし云はねは猶も増おもひ

心ひとつのやるかたそあき

増田仁右衛門

滿腔如裂

しきしまの大和まゝろを盡しても

仇となる世や奈にしまし

中村藤三郎

感慨如滴

ふたはりの弓引ましとものゝふの

終始如一

たゝ一そしに思ひきるあり 佐野七五三之助重成

國のため盡しつくせし眞まゝるは

小橋友之助以義

忠魂如生

百世の後もくちさらめやは

うつ人もうたるゝ人もまゝるせよ

野崎主計政盛

同仁如天

おなし御國のみたみあり是

あめ風にちるともよしやさくら花

山本誠一郎朝正

視死如歸

君か爲にはなにかいとはん

君か爲ちりとかはねをさらそとも

伊藤幸之助知義

名は萬代ののちもくちせし

香名如癖

みたれたる糸のそしくくり返し

木村愛之助重道

世道如麻

いつしか解る御代に成らん

君かためまよとの道やつくさあん

武田伊賀守正生

赤心如血

有て甲斐あき我身あからも

さく梅は風にはかあく散るとても

藤田小四郎斌勇

遺芳如梅

にほひは君か袖にうつして

久かたの月に雲あき世にしあらは

朝倉 弾 正

王澤如露

なにうかりけん須磨の浦人

鐵 寸 新
有所權版

全 明 治 二 十 二 年 十 月 十 三 日 印 刷
全 明 治 二 十 四 年 十 月 十 四 日 出 版
全 明 治 二 十 六 年 十 月 十 一 日 再 版
全 明 治 二 十 六 年 五 月 一 日 改 題 印 刷
全 年 五 月 五 日 發 行

定 價 金 十 五 錢

東 京 市 神 田 區 裏 神 保 町 一 番 地

發 行 者 長 井 庄 吉

東 京 市 神 田 區 小 川 町 三 十 二 番 地

印 刷 者 三 島 宇 一 郎

東 京 市 神 田 區 裏 神 保 町 一 番 地

發 賣 所 上 田 支 店

東 京 市 日 本 橋 區 本 石 町 二 丁 目

大 賣 捌 上 田 屋 本 店

維新活歷史

正價金十二錢 郵税金二錢

英西鄉隆盛傳

正價金十二錢 郵税金二錢

英文楠公

正價金十二錢 郵税金二錢

原歌英百人一首

正價金七錢五厘 郵税金二錢

英譯佐倉宗五郎傳

正價金十五錢 郵税金二錢

英譯伊賀越復讎譚

正價金十錢 郵税金二錢

總テ郵券代用一割増

本郷區金助町六十三番地

發行所 公明館

東京市神田區裏神保町一番地

發賣所 上田屋支店

三島中洲先生題字 古志學人新著

實地新撰國民用文

全一册頗美本正價廿錢郵稅六錢郵券代用一割増
作文書世ニ多シト雖凡古來普通ノ用文章ハ
萬卷一様ニシテ現今ノ實用ニ適セザレバ今
世ノ學生諸君ニ活益スル様一大新機ノ改良
ヲ加ヘ首卷ニ文章ノ作法、日用書簡文、諸願
屆文ノ書式、作文必須ノ熟語、金言、記事文
古今大家ノ論說題跋等總テ作文必需ノ事項
洩サス網羅スル廣益ノ良書ナリ
東京市神田區裏神保町一番地

發賣所

上田屋支店

巖谷一六先生題詞 加藤咄堂先生著

時文軌範

全一冊頗美本正價廿錢郵稅六錢

郵券代用一割増

明治文學ノ一現象トシテ時文ナル者起ルル而モ未タ時文カ法軌ヲ示セル者アラサルナリ、本書ハ著者カ該博ノ識ヲ以テ其變遷ヨリ作法構成修飾ニ及ヒ付スルニ近世名家カ意匠慘憺ノ後ニ成レル名篇數十ヲ以テシ更ニ讀者作文ノ法ヲ學ケテ文家修養ノ一助トシ、文話逸事ヲ載セテ靜ニ故人カ刻苦ノ跡ヲ察セシメ其他和漢英對譯ノ文例ハ精細ナル翻譯ノ軌タルヘク、金言、麗句ハ流麗愛ス可ク清素掬ス可シ、文家若シ一卷ヲ坐右ニ供セハ修辭立誠ニ於テ必スヤ餘師アラン

谷山春窓先生題字 古志學人著

作文之原泉

全三冊四百卅頁餘正價八錢郵券代用一割増

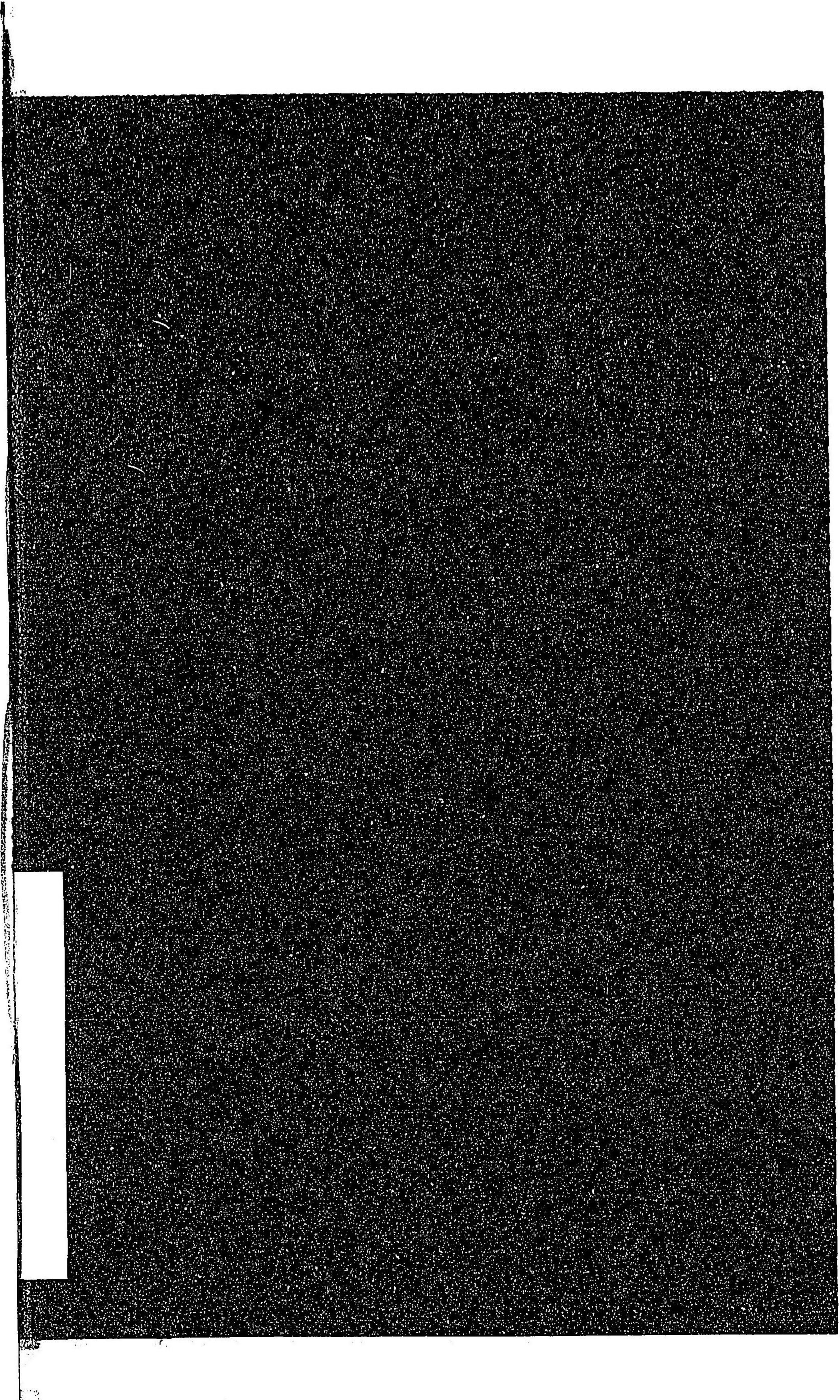
略目

大略右ノ部門ニ分チ凡百珍ノ故事數千章類聚シ首章和歌俳諧都々一等ヲ以テ短評シ名家ノ詩ヲ列スルヲ幾百千一見博識文思湧出シ一讀譬ヲ善クシ筆路暢達スハシ苟モ文ヲ作ラントスル者ハ讀メ話ヲ爲サントスル諸彦一讀スレハ補益多カルハシ

初學 作文三法

文章構成法 正價八錢
文章修飾法 郵トモ
文章熟達法

爲替ハ神田一ツ橋郵便取扱所へ御振込ノ和漢洋書籍、稗史小説、諸雜誌誠實廉價ニ販賣仕候間多少共御注文之程御願ヒ申上候
東京市神田區裏神保町一番地
上田屋支店 長井庄吉



特 46

464

新 寸 鉄

国立国会図書館

102140-000-5

特46-464

新寸鉄

千葉 昌胤/編

M26

EAF-0135